

地域研究センター年報

令和5（2023）年度 第16号



やわらかな知性を身につける。

宮崎公立大学

MMU LIBERAL ARTS



目 次

地域研究センター長あいさつ	1
---------------	---

令和 5(2023)年度地域研究センター学年暦	3
-------------------------	---

I 生涯教育事業

定期公開講座	8
--------	---

自主講座	16
------	----

語学講座	36
------	----

リカレント教育プログラム	42
--------------	----

開放授業	46
------	----

公民館講座	50
-------	----

その他講座・講演・講義	52
-------------	----

II 研究事業

令和 5(2023)年度 宮崎公立大学学術研究推進助成事業	58
-------------------------------	----

III 連携協力事業

宮崎市教育委員会等との連携協力	72
宮崎銀行・宮崎太陽銀行との連携協力	78
宮崎商工会議所との連携協力	79
宮崎日日新聞社との連携協力	80
宮崎県立宮崎南高等学校との連携協定	82
京都大学防災研究所との連携協定	83

IV 資料

宮崎公立大学交流センター・凌雲会館施設利用状況	86
-------------------------	----

V 付 録

新聞掲載記事一覧	90
新聞掲載記事	91

地域研究センター長あいさつ



地域研究センター長
宮崎公立大学 教授 川瀬 隆千

宮崎公立大学地域研究センター年報第 16 号の発行に当たり、一言ご挨拶申し上げます。
地域の皆様におかれましては、日頃から本学の地域貢献活動にご理解、ご協力をいただき、誠にありがとうございます。

2023 年、猛威を振るったコロナ禍は一応収まりました。私たちは知識や経験を総動員して、知恵を絞り、困難を克服したのです。一人一人が積み重ねてきたさまざまな知識や経験がコロナ禍を乗り越える大きな知恵になったのだらうと思います。

正解のない問題、困難な事態に直面したとき、蓄積してきた知識や経験は問題を克服し、困難を乗り越える力になります。これこそ教養と言われるものです。今すぐに役に立つものではないかもしれませんが、それは困難に立ち向かい、克服する力、レジリエンスの源なのです。

本学はこれからも公開講座などの地域貢献活動を通して、市民の皆様のレジリエンス向上に貢献していきます。

では、2023 年度に取り組んできた地域貢献活動を振り返ってみます。

まず、定期公開講座です。本学では、毎年秋に、統一テーマに基づき複数の教員がそれぞれの専門分野の講義を行う「定期公開講座」を開講しています。2023 年度は『「ポスト・コロナ時代」の宿題～IT・つながり・地域社会』という統一テーマのもと、メディア・コミュニケーション専攻の 5 人の教員が「AI など IT の進展で、できること、できないこと」（辻利則教授・学長）、「つながりの再構築とコロナ禍からの立ち直り」（川瀬）、「個とつながりによりそうデザイン」（井田志乃准教授）、「ポストコロナ期における学力と学びのあり方」（野崎秀正教授）、「IT・つながり・学び～地域が<リスク社会>を乗り越えるために～」(梅津頭一郎准教授) というタイトルで、ポスト・コロナ時代の課題を論じました。本学の 103 大教室で開催しましたが、オンラインも併用したハイブリッド方式で実施し、延べ 224 人の参加を得ることができ、大変好評でした。

語学講座も対面で実施しました。例年通り、英語中級、中国語初級、韓国語初級の各講座を 5 月から 20 回開催しました。「英語中級講座」はスコット・ビンガム准教授（現・教授）が講師を務め、「中国語初級講座」は日中文化交流促進部の学生が、また、「韓国語初級講座」

は韓国文化研究部の学生が講師を務めました。小学生英語講座も復活し、中村勝志講師が担当して「楽しく学べる小学3・4年生初級英語教室」を開催しました。延べ65人の小学生が参加し、元気な声が響きました。

自主講座は、本学の教員がそれぞれの専門性や問題意識のもとに主体的に展開する講座で、本学の地域貢献活動の特色の一つです。2023年度には8人の教員が9講座を開催しました。テーマはバラエティに富んでいます。実施順に紹介すると、「元NHKアナウンサーによる教員のための音読講座」(西村勇特任教授)、「多文化共生への道—東アジアの十五夜行事を通して—」(永松敦教授)、「教育機関・地域と連携した防災教育」(辻利則教授・学長)、「中高生のための使える英語講座 Vol.2」(松本祐子教授)、「ヘーゲル哲学に学ぶ考え抜く力」「謝罪を哲学する」(川瀬和也准教授)、「児童文学で学ぶイギリス文化」(村上幸大郎准教授)、「教師の世界を探求する」(寺町晋哉准教授)、「宮崎と文学—平野啓一郎『ある男』—」(楠田剛士准教授)となります。小規模な講座がほとんどですが、自主講座は本学の研究分野の広さを示し、地域の皆さんのさまざまな関心に応えることができる講座であると自負しています。

本学では、地域の具体的なニーズに対応し、地域の皆様のキャリアアップにも役立つリカレント教育にも力を入れています。2023年度には2つのプログラムを実施しました。「ホテル接客英語講座」はヒュー・ニコル講師の担当で、また、「サービス業従事者のための接客韓国語講座」は申允珠講師の担当で、どちらも9月から12月にかけて10回の講義、および修了認定試験を行い、合格者には修了認定証を発行しました。業務に直結する実践的な内容を学ぶことができ、参加された皆様のみならず、参加者の所属企業等からも高い評価をいただきました。これからも地域のニーズに対応できるようリカレント教育プログラムの充実を図っていききたいと思います。

公民館講座は宮崎市内の公民館と本学が共同で開催する講座です。本学教員が各地の公民館に出向いて講座を行っています。2023年度には4人の教員が7件の講座を行いました。大賀郁夫教授の「よみがえる江戸時代の宮崎」は4回のシリーズで行われ、大変好評でした。松本祐子教授の「言葉の技術」、楠田剛士准教授の「日本文学／映画を読む」も毎年恒例の講座です。川瀬も「本当の心理学の話」をしました。

ご紹介したように、2023年にも講座などを中心にあくさんの地域貢献活動を実施することができました。地域の皆様と対面でやりとりすることができたのは大変良かったと思いますし、オンラインも併用して、より多くの皆様にさまざまなコンテンツをお届けすることができました。

宮崎公立大学はこれからも知の拠点として研究成果を地域に還元するとともに、地域のさまざまな課題解決に貢献しながら、地域のシンクタンクとしての役割を果たしていきます。宮崎公立大学の地域貢献活動への一層のご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

宮崎公立大学 令和5（2023）年度 地域研究センター学年暦
2023 Academic Calendar

4月		5月		6月		7月		8月		9月	
月		1				月					
火		2				火		1			
水		3	憲法記念日			水		2			
木		4	みどりの日	1	語学講座中国語初級④	木		3			
金		5	こどもの日	2		金		4	宮崎公立大学 教育フォーラム2023	1	
土	1	6		3		土	1	5		2	
日	2	7		4		日	2	6	オープンキャンパス	3	
月	3	8		5		月	3	7		4	
火	4	9	語学講座英語中級①	6	語学講座英語中級⑤	火	4	8	語学講座英語中級⑨	5	
水	5	10	語学講座韓国語初級①	7	語学講座韓国語初級⑤	水	5	9	語学講座韓国語初級⑨	6	
木	6	11	語学講座中国語初級①	8	語学講座中国語初級⑤	木	6	10	語学講座中国語初級⑨	7	
金	7	12	振替休日	9		金	7	11	山の日	8	
土	8	13		10		土	8	12		9	
日	9	14		11		日	9	13		10	
月	10	15		12		月	10	14		11	
火	11	16	語学講座英語中級②	13	語学講座英語中級⑥	火	11	15	語学講座英語中級⑩	12	
水	12	17	語学講座韓国語初級②	14	語学講座韓国語初級⑥	水	12	16	語学講座韓国語初級⑩	13	
木	13	18	語学講座中国語初級②	15	語学講座中国語初級⑥	木	13	17	語学講座中国語初級⑩	14	
金	14	19		16		金	14	18		15	
土	15	20		17		土	15	19		16	
日	16	21		18		日	16	20		17	
月	17	22		19		月	17	21	海の日	18	敬老の日
火	18	23	語学講座英語中級③	20	語学講座英語中級⑦	火	18	22		19	
水	19	24	語学講座韓国語初級③	21	語学講座韓国語初級⑦	水	19	23		20	
木	20	25	語学講座中国語初級③	22	語学講座中国語初級⑦	木	20	24		21	
金	21	26		23		金	21	25		22	
土	22	27		24	オープンキャンパス	土	22	26		23	秋分の日
日	23	28		25		日	23	27		24	
月	24	29		26		月	24	28		25	
火	25	30	語学講座英語中級④	27	語学講座英語中級⑧	火	25	29		26	
水	26	31	語学講座韓国語初級④	28	語学講座韓国語初級⑧	水	26	30		27	
木	27			29	語学講座中国語初級⑧	木	27	31		28	
金	28			30		金	28			29	辻学長 定期公開講座
土	29	昭和の日				土	29			30	
日	30					日	30				
月						月	31				
火						火					

宮崎公立大学 令和5（2023）年度 地域研究センター学年暦
2023 Academic Calendar

10月		11月		12月		1月		2月		3月	
月						月	1 元日				
火						火	2				
水		1 語学講座韓国語初級⑮				水	3				
木		2 語学講座中国語初級⑮				木	4	1			
金		3 文化の日	1			金	5	2		1	
土		4	2			土	6	3 川瀬和也准教授 自主講座	2	寺町准教授 自主講座	
日	1	5	3			日	7	4	3	楠田准教授 自主講座	
月	2	6	4			月	8 成人の日	5		4	
火	3 語学講座英語中級⑪	7 語学講座英語中級⑮	5 語学講座英語中級⑳			火	9	6		5	
水	4 西村特任教授自主講座 語学講座韓国語初級⑪	8 語学講座韓国語初級⑮	6 辻学長 自主講座 語学講座韓国語初級㉑			水	10	7		6	
木	5 語学講座中国語初級⑪	9 語学講座中国語初級⑮	7 辻学長 自主講座 語学講座中国語初級⑲			木	11	8		7	
金	6 川瀬教授 定期公開講座	10 梅津准教授 定期公開講座	8			金	12	9		8	
土	7 永松元教授 自主講座	11	9 松本教授 自主講座			土	13	10		9	
日	8	12	10			日	14	11 建国記念日		10	
月	9 スポーツの日	13	11			月	15	12 振替休日		11	
火	10 語学講座英語中級⑫	14 語学講座英語中級⑰	12			火	16	13		12	
水	11 西村特任教授自主講座 語学講座韓国語初級⑫	15 語学講座韓国語初級⑰	13			水	17	14		13	
木	12 語学講座中国語初級⑫	16 語学講座中国語初級⑰	14 語学講座中国語初級㉒			木	18	15		14	
金	13 井田准教授 定期公開講座	17 辻学長 自主講座	15			金	19	16 村上准教授 自主講座		15	
土	14	18	16			土	20	17		16	
日	15	19	17 川瀬和也准教授 自主講座			日	21	18		17	
月	16	20	18			月	22	19		18	
火	17 語学講座英語中級⑬	21 語学講座英語中級⑰	19			火	23	20		19	
水	18 西村特任教授自主講座 語学講座韓国語初級⑬	22 語学講座韓国語初級⑰	20			水	24	21		20 春分の日	
木	19 語学講座中国語初級⑬	23 勤労感謝の日（開講日）	21			木	25	22		21	
金	20 凌雲祭準備（休講）	24	22			金	26	23 天皇誕生日	22 卒業式		
土	21 凌雲祭	25	23			土	27	24		23	
日	22 凌雲祭	26	24			日	28	25		24	
月	23 凌雲祭撤収（休講）	27	25			月	29	26		25	
火	24 語学講座英語中級⑭	28 語学講座英語中級⑰	26			火	30	27		26	
水	25 語学講座韓国語初級⑭	29 辻学長 自主講座 語学講座韓国語初級⑲	27			水	31	28		27	
木	26 語学講座中国語初級⑭	30 語学講座中国語初級⑰	28			木		29		28	
金	27 野崎教授 定期公開講座		29			金				29	
土	28		30			土				30	
日	29		31			日				31	
月	30					月					
火	31 語学講座英語中級⑮					火					

I 生涯教育事業

* 定期公開講座

* 自主講座

* 語学講座

* リカレント教育プログラム

* 開放授業

* 公民館講座

* その他講座・講演・講義

令和5(2023)年 定期公開講座

令和5年度 定期公開講座			
*全体テーマ 「ポスト・コロナ時代」の宿題～IT・つながり・地域社会			
講義	日時	講座演題	講師
第1回	9月29日 (金) 18:30 ～ 20:00	開講あいさつ	学長 辻 利則
		「AIなどITの進展で、できること、できないこと」	宮崎公立大学 学長 辻 利則
第2回	10月6日 (金) 18:30 ～ 20:00	「つながりの再構築とコロナ禍からの立ち直り」	宮崎公立大学 教授 川瀬 隆千
第3回	10月13日 (金) 18:30 ～ 20:00	「個とつながりによりそうデザイン」	宮崎公立大学 准教授 井田 志乃
第4回	10月27日 (金) 18:30 ～ 20:00	「ポストコロナ期における学力と学びのあり方」	宮崎公立大学 教授 野崎 秀正
第5回	11月10日 (金) 18:30 ～ 20:00	「IT・つながり・学び～地域が<リスク社会> を乗り越えるために～」	宮崎公立大学 准教授 梅津 顕一郎
		閉講あいさつ	川瀬 地域研究センター長

宮崎公立大学 定期公開講座 (第1回講座 / 全5回)

実施日時	令和5年9月29日(金) 18時30分～20時00分
会場	宮崎公立大学 103大講義室
受講料	無料
対象者	主に高校生以上
募集定員	100名
受講者	対面：33名 オンライン：22名
配付資料等	各講座資料等
担当講師	演 題
宮崎公立大学 学長 辻 利則	「AI など IT の進展で、できること、できないこと」

【講座内容】

最近盛り上がりを見せているのがAI (Artificial Intelligence : 人工知能)。1950年代から研究が始まり、現在は3度目のブーム。私はChatGPTを使っていますが、人間のような自然な文章、プログラムコードの質問に対する的確な回答には頭が下がります。自然言語処理技術は、学習した文の単語の順を統計的に処理し、単語の組合せの高い確率の順に文を作るので、勝手に造語を作るときもあって注意が必要です。講座ではAI技術を使ったネットワークのお話をし、「情報伝達手段は時代と共に変わったが、伝えたいことは古墳時代と変わらない」と古墳時代を研究されている先生の言われたことについて考えてみたいと思います。いずれにしてもそれぞれの価値を理解し、そのバランスを取ることが、より豊かな生活を手に入れることになると思います。

【受講者感想 ※アンケートから抜粋】

- これまで Chat GPT に対しては、怖い、使うとやばいというマイナスなイメージしかありませんでしたが、辻先生のお話を聞いて、実際に使ってみたい、うまく活用してみたいという気持ちになりました。
- 実際にAI関連の話聞き、ひととAIをうまく活用すれば有益なものになるという事が分かりました。



宮崎公立大学 定期公開講座 (第2回講座 / 全5回)

実施日時	令和5年10月6日(金) 18時30分～20時00分
会場	宮崎公立大学 103大講義室
受講料	無料
対象者	主に高校生以上
募集定員	100名
受講者	対面：28名 オンライン：24名
配付資料等	各講座資料等

担当講師	演 題
宮崎公立大学 教授 川瀬 隆千	「つながりの再構築とコロナ禍からの立ち直り」

【講座内容】

新型コロナウイルス感染症は人間社会への脅威であった。自粛警察やマスク警察のように、感染者への非難、医療従事者への差別的な行動などがあった。感染予防対策としてのリモートワークやオンライン授業、ソーシャルディスタンスは、結果として、人々の孤立をいっそう深めた。新型コロナウイルス感染症は私たちを互いに敵対させて分断し、孤立させたのである。

しかし、これらの問題は私たちの社会がずっと抱えていたことである。コロナは私たちの社会が以前から抱えていた問題を炙り出したと言ってもよい。

コロナに限らず、人間社会への脅威は将来再び生じるだろう。その時、私たちが脅威に立ち向かい、そこから立ち直るためには、私たち自身がしなやかな回復力を身につけておく必要がある。分断や孤立はなぜ起こったのか、その原因を検討し、分断や孤立を防ぐ方策を考えなければならない。今回の講座では、コロナが残した宿題に心理学の観点からこたえようと思う。

【受講者感想 ※アンケートから抜粋】

- ・コロナがあったからこそ、私たちの社会、生活を見直すことが出来たというお話に納得しました。心理学の観点からご教示いただき、新しく知ることも多かったです。
- ・コロナ禍における人間の行動や心理の特徴を社会心理学の理論からわかりやすく説明していただき興味深かったです。
- ・この講座をきっかけに、これから更にレジリエンスを身につける努力をしたいと思いました。



宮崎公立大学 定期公開講座 (第3回講座 / 全5回)

実施日時	令和5年10月13日(金) 18時30分～20時00分
会場	宮崎公立大学 103大講義室
受講料	無料
対象者	主に高校生以上
募集定員	100名
受講者	対面：23名 オンライン：配信なし
配付資料等	各講座資料等
担当講師	演 題
宮崎公立大学 准教授 井田 志乃	「個とつながりによりそうデザイン」

【講座内容】

2010年前後から「スペキュラティブ・デザイン」といわれるデザインに対する態度への関心が高まり、日本においても2010年代半ばから目にする機会が多くなりました。イギリスの美術大学で教鞭をとっていたデザイナーが提唱した「スペキュラティブ・デザイン」では、従来の問題解決を主な目的とするデザインとは異なり、物事の可能性を思索するための手段としてデザインを用います。

本講座では、コロナ禍を経験した世界における生活様式やつながりの在り方を考える手がかりとしていたために、隣接した手法や思考法等を踏まえながら具体例とともに「スペキュラティブ・デザイン」とは何かを確認していきます。さらに、宮崎公立大学の学生がコロナ禍で、またコロナ禍を経験したその後の世界について、思い描いた未来のための提案内容を紹介し、ウィズ・コロナ、ポスト・コロナ時代の望ましい世界を考える機会としていただきたいと思います。

【受講者感想 ※アンケートから抜粋】

- ・ スペキュラティブデザインについて、未来の可能性を提示して考えさせるというだけでなく、反対に現実を突きつけることにもなりうるというのが印象的でした。あっという間で楽しい時間でした。
- ・ 望ましい未来を考えるスペキュラティブデザインを知ることができて良かったです。自分自身でも調べて詳しく考えたいと思いました。
- ・ グッドデザイン賞について初めて詳しい話を聞くことができました。



宮崎公立大学 定期公開講座 (第4回講座 / 全5回)

実施日時	令和5年10月27日(金) 18時30分～20時00分
会場	宮崎公立大学 103大講義室
受講料	無料
対象者	主に高校生以上
募集定員	100名
受講者	対面：23名 オンライン：14名
配付資料等	各講座資料等

担当講師	演 題
宮崎公立大学 教授 野崎 秀正	「ポストコロナ期における学力と学びのあり方」

【講座内容】

2020年は、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の感染拡大により、私達のそれまでの日常や生活様式が一変するはじまりの年であった。日本政府は、同年3月に全国の学校に臨時休校を要請し、そのほとんどは同年5月末までの臨時休校措置をとることとなった。つまり、2020年度の学校教育は一斉休校という前代未聞の状況から始まったわけであるが、この年は、実は小学校を皮切りに新しい学習指導要領の全面実施が始まった年であり、国がかつてない教育改革のスタートとして位置づけていた年でもあった。こうした教育改革の背景には、Society5.0とも呼ばれる不確実で複雑な時代に必要となる能力の特定とそれを育てるための新たな教育の提案という学力観や教育観の転換があったが、コロナ禍における生活様式や価値観の変化は、奇しくもこうした予測を体現した出来事となった。例えば、学校におけるオンライン授業をはじめとする教育のデジタル化は、皮肉にもコロナ禍の状況で飛躍的に推進した。そして、ポストコロナ期ともいえる現在、私達はニューノーマル（新たな日常）への移行とそれに伴う学校教育の構築という大きな転換点に再び立っていると見える。この講座では、コロナ禍以前から国が進めていた教育改革の目的とその背景、そしてコロナ禍を経験することにより見えてきた新たな教育課題から、ポストコロナ期と呼ばれるこれからの時代において必要な学校教育のあり方について考える。

【受講者感想 ※アンケートから抜粋】

- ・子供、孫を育てた経験をふりかえりながら、講義を聞きました。そして「これで良かったのだ」と安心しました。



宮崎公立大学 定期公開講座 (第 5 回講座 / 全 5 回)

実施日時	令和 5 年 11 月 10 日 (金) 18 時 30 分～20 時 00 分
会 場	宮崎公立大学 103 大講義室
受 講 料	無料
対 象 者	主に高校生以上
募 集 定 員	100 名
受 講 者	対面 : 22 名 オンライン : 19 名
配付資料等	各講座資料等

担 当 講 師	演 題
宮崎公立大学 准教授 梅津 顕一郎	「IT・つながり・学び～地域が<リスク社会> を乗り越えるために～」

【講座内容】

2020 年以降の新型コロナウイルスの感染拡大は、現代の社会の大きな仕組みに係る弱点を、改めて私たちに実感させる出来事でした。一見自由で豊かな生活が、個人、あるいは個々の集団の幸福と、社会全体の幸福との「危うい」バランスの上に成り立っていること、そしてそのような「危うさ」は、地球規模でいたるところに存在していることを、改めて実感させられた方も多いと思います。

環境問題、国家間の争い、多様な価値の共存。コロナ禍だけでなく、地域社会における私たちの生活は、人類全体で取り組むべき課題と常に連なって成り立っています。では、ポストコロナ禍ともいべきこれからの課題に地域社会はどう取り組めばよいのでしょうか。

最終回では、これまでの講義内容を踏まえながら、社会学者 U.ベックがかつて提唱した「社会的リスクの再分配」という観点から考えていきます。

【受講者感想 ※アンケートから抜粋】

- ・私は今回のテーマに入っているリスク社会の意味が全く分からずに参加をしたけど知識が無くても講義についていけてよかったです。
- ・全部の日程を聞き終えたいま、学問を通して倫理観や Be (自分はどうありたいか) を自問する経験ができてよかったです。公立大の未来ある学生さんがこのような高品質な教養をうけていることがわかり、高齢者の私は心強く感じております。



令和5年度 宮崎公立大学 定期公開講座

受講料 無料
事前予約制

統一テーマ

「ポスト・コロナ時代」の宿題 ～IT・つながり・地域社会

広く地域に開かれた大学として、生涯学習の振興及び文化の向上に貢献することを目的に、公開講座を開講します。今年度はメディア・コミュニケーション専攻所属の教員が講師となり全5回の講座を実施します。(4講座はzoomライブ配信あり)この機会に本学の講座を体験してみませんか？

【日程】

令和5年9月29日～11月10日
全5回・毎週金曜日(10月20日、祝日は除く)

【時間】

18時30分～20時

【会場】

宮崎公立大学 103大講義室及び
オンライン(zoomによるライブ配信)
※zoomのURL及びパスワードは前日までに
メールにてお知らせします。

【定員】

200名(事前予約制)

詳しくは本学ホームページを
ご覧ください。

宮崎公立大学



申込フォーム



【担当講師】

- ・第1回 辻 利則
宮崎公立大学 学長
- ・第2回 川瀬 隆千
宮崎公立大学 教授
- ・第3回 井田 志乃
宮崎公立大学 准教授
- ・第4回 野崎 秀正
宮崎公立大学 教授
- ・第5回 梅津 顕一郎
宮崎公立大学 准教授

注意事項

- ※事前予約制といたします。
- ※お申込み受付後、特にご連絡は致しませんので、当日会場にお越しください。
- ※ご予約のない方の当日受け付けはいたしませんので、予めご了承ください。
- ※台風・災害等で講座を中止する場合は、本学ホームページで案内します。
- ※zoomの利用方法等について、本学による説明や技術的なサポートは致しかねます。

宮崎公立大学 地域研究センター

定期公開講座フライヤー

令和5年度 宮崎公立大学 定期公開講座

テーマ：各日程のテーマ・講師



第1回
9/29
(金)

「AIなどITの進展で、できること、できないこと」
宮崎公立大学 学長 辻 利則



第2回
10/6
(金)

「つながりの再構築とコロナ禍からの立ち直り」
宮崎公立大学 教授 川瀬 隆千

第3回
10/13
(金)

「個とつながりによりそうデザイン」
宮崎公立大学 准教授 井田 志乃



第4回
10/27
(金)

「ポストコロナ期における学力と学びのあり方」
宮崎公立大学 教授 野崎 秀正



第5回
11/10
(金)

「IT・つながり・学び～地域が<リスク社会>を乗り越えるために～」
宮崎公立大学 准教授 梅津 顕一郎

※zoomのURL及びパスワードは前日までにメールにてお知らせします。

申込方法

(講座期間中も受け付けいたします。1講座だけの受講も可能です。)

郵便・FAX・Googleフォームのいずれかの方法で、
以下の事項を宮崎公立大学地域研究センター宛、お申込みください。

- ①受講希望日 ②対面希望・オンライン希望 ③氏名(ふりがな)
④連絡が取れる電話番号 ⑤メールアドレス

注意
事項

- ※事前予約制といたします。
- ※お申込み受付後、特にご連絡は致しませんので、当日会場にお越しください。
- ※ご予約のない方の当日受け付けはいたしませんので、予めご了承ください。
- ※台風・災害等で講座を中止する場合は、本学のホームページで案内します。
- ※zoomの利用方法等について、本学による説明や技術的なサポートは致しかねます。

お申込み・お問合せ先

宮崎公立大学地域研究センター

〒880-8520 宮崎市船塚1丁目58 凌雲会館2階

TEL：0985-20-4772 FAX：0985-20-4773

メール：mmukoza@miyazaki-mu.ac.jp

受付時間：平日9:00～17:00



令和5年度 自主講座一覧

	開催日時	開催者名	講座名
1	10月4日(水) 10月11日(水) 10月18日(水) 18:30~20:00	特任教授 西村 勇	元NHKアナウンサーによる教員のための音読講座 「子供たちに教えたい!すごいぞオンドク!」
2	10月7日(土) 14:00~16:00	教授 永松 敦	多文化共生への道 ー東アジアの十五夜行事を通してー
3	11月17日(金) 11月29日(水) 12月6日(水) 8:00~13:00	学長 辻 利則	教育機関・地域と連携した防災教育 (第13回ストリートウォッチング)
4	12月9日(土) 10:00~12:00	教授 松本 祐子	中高生のための「使える英語」講座Vol.2
5	12月17日(日) 14:00~16:00	准教授 川瀬 和也	ヘーゲル哲学に学ぶ考え抜く力
6	2月3日(土) 15:00~17:00	准教授 川瀬 和也	「謝罪」を哲学する
7	2月16日(金) 18:00~20:00	准教授 村上 幸太郎	児童文学で学ぶイギリス文化
8	3月2日(土) 14:00~17:00	准教授 寺町 晋哉	教師の「世界」を探求する
9	3月3日(日) 10:00~12:00	准教授 楠田 剛士	宮崎と文学 ー平野啓一郎『ある男』

講座名	元NHKアナウンサーによる 教員のための音読講座 「子供たちに教えたい! すごいぞオンドク!」	
実施期間回数	令和5年10月4日(水)、11日(水)、18日(水) 18時30分~20時00分	全3回
会場	交流センター 会議室	
講師	元NHKアナウンサー 杉尾 宗紀 講座企画:宮崎公立大学 特任教授 西村 勇	
共催者	なし	
後援	なし	
その他スタッフ	学生アルバイト1名	
受講料	無料	
配付資料等	なし	
募集定員	10名	
対象	小学校・中学校の教員、または教員を目指す学生等	
受講者数	のべ17名	
【講座の内容】	<p>元NHKアナウンサー杉尾宗紀氏による、先生のための音読講座。小学校5年生用の国語教科書「大造じいさんとガン」をテキストに「楽しいことがすべて。楽しくなければオンドクではない!」を体感しながら音読のノウハウを学んだ。</p> <p>発声について</p> <ul style="list-style-type: none"> ○日本語は母音が9割 ○意外と知らない自分の声 ○小声で始めよう <p>※発声のフィジカルトレーニング法</p> <p>読みについて</p> <ul style="list-style-type: none"> ●書かれた言葉を味わいながら声に出す ●アナウンサーは意味のかたまりで読む ●意味のかたまりをバラバラに切り刻んだ先に朗読がある ●朗読者は3Dプリンター、メタバースを目指せ 	
【講師風景写真】		
【講師コメント】	<p>日常的に生徒の前で声を出している先生は、しっかり自分の声を発するという身を付けていて感心しました。自分のパーソナルな声でなければ教室で生徒たちを導くことはできないのだなと納得させられました。</p> <p>教えるプロの皆さんは、教わることもプロで、集中力と反応の良さは抜群で、若手のアナウンサーよりも呑み込みも早いと感じました。今回は3回の講座でしたが、2回でも十分に伝わるといった感触を得ました。</p> <p>「生徒たちと同じ目線で楽しく声を出して読む」というのが音読授業の秘訣です。可能なら来年度は講座の回数を増やして、少しでも多くの先生に参加していただき、音読の楽しさを教育現場で広げることができたらという思いを抱いています。それくらい手応えのある講座になりました。</p> <p>講座終了後、先生方で独自の音読サークルを作りたいというお話までいただき。まさに我が意を得たりでした。</p> <p>貴重な機会をいただき本当にありがとうございました。</p>	

元NHKアナウンサーによる
教員のための音読講座

講座企画・司会
宮崎公立大学 特任教授 西村 勇

宮崎公立大学 自主講座

「子供たちに教えたい！ すごいぞオンドク！」

講座テキスト

「大造じいさんとガン」 椋鳩十

「音読」「読み聞かせ」。子供たちの思考力や想像力を育むことはわかっているも、「どう読んでもらうのがいいのか・・・」「生徒にアドバイスしたいけど・・・」という教壇に立つ皆さん。ついつい、正しい日本語のアクセントで正確に読むことを優先してしまい、何より大切な子供たち一人ひとりの個性をないがしろにしていますか？

音読＝朗読は、誰にでもできる知的冒険。お子さんのコミュニケーション力の醸成にもつながります。「なまっちょるから・・・」という先生ほど個性的な優れた読み手、音読指導者になる可能性が高いことをご存じですか？

元NHKアナウンサーが「声を出して読んで伝えるノウハウ」を3回の講座で伝授します。



講師紹介

杉尾宗紀

1957年国富町生まれ。NHKアナウンサーとしておよそ40年勤務。オウム真理教事件・沖縄サミットなどの報道や宮崎放送局「いっちょがゴールド」キャスターを務める。東日本大震災では仙台放送局からラジオの終夜放送で「開けない夜はない」と呼びかけた。

日時	10月4日(水)、11日(水)、18日(水) 全3回 18:30～20:00
会場	宮崎公立大学 交流センター 会議室
対象者	教員または教員をめざす学生 ※全3回受講できる方
定員	10名程度（応募多数の場合抽選）
受講料	無料

※テキストにつきましては、各自でご準備してください。

申込方法

右の申込みQRコードよりお申込みください。

URL：<https://forms.gle/HitwmdGzAS4rsLuX66>

ご提供いただいた個人情報は本学が実施している各種講座の運営および統計分析に使用し、これらの目的以外に使用することはありません。

申込締切 9月20日（水）



お問合せ先 宮崎公立大学 地域研究センター（凌雲会館2階） TEL：0985-20-4772（土・日、祝日を除く9:00～17:00）
E-mail mmurrc@miyazaki-mu.ac.jp

講座名	多文化共生への道—東アジアの十五夜行事を通して—	
実施期間 回数	令和5年10月7日(土) 14時00分～16時00分	全1回
会場	宮崎公立大学 交流センター 多目的ホール	
講師	立命館大学衣笠総合研究機構 教授 大形 徹 関西学院大学社会学部 教授 島村 恭則 在日朝鮮人 2.5世 李 信恵 宮崎公立大学 教授 永松 敦	
共催者	なし	
後援	なし	
その他スタッフ	本学学生	
受講料	無料	
配付資料等	なし	
募集定員	50名	
対象	一般市民	
受講者数	受講者数：50名(会場 20名 オンライン 30名)	

【講座の内容】

大形徹氏「中国におけるチガヤ・ススキなどの植物の役割—お月見のススキと比較して—」・島村恭則氏「月待と伽 二十三夜講を中心に」・李信恵「在日朝鮮人と秋夕」の発表を中心に、お月見の際に、なぜ、日本ではススキが供えられるようになったのか？二十三夜の下弦の月をなぜ拝むのかについて、討論を行った。大阪の在日コリアンの方々の秋夕の過ごし方について、具体的な事例をもとにお話をいただいた。

本講座の目的は、東アジア共通の文化である十五夜を通じて、日中朝韓の相互の文化理解を深め、平和的な交流を促進させる一助となることを願っている。海外からのアクセスもあり。国際平和は身近な文化交流から少しずつで相互理解を深めることの重要性を再認識できた講座であった。

【講座風景写真】



【講師コメント】

2020年度以後のコロナ禍により、オンラインで、日本と中国、韓国とを結び、十五夜にまつわる文化のシンポジウムを継続して行い、今回は4回目となった。本シンポジウムは主催者の退職に伴い、今回で最後となるが、次年度からは関西学院大学世界民俗学研究センター主催として継続することになる。宮崎県の華人・華僑の方々など多くの在日外国人の方々にも参加を呼びかけ、今後は十五夜だけではなく、新年行事も含めて幅広く活動を展開していきたいと考えている。

宮崎公立大学自主講座

十五夜



第4回日中韓オンライン・シンポジウム

多文化共生への道
—東アジアの十五夜行事を通して—

2023年10月7日(土)

14時~16時

会場 宮崎公立大学交流センター

* オンライン参加可

パネリスト

大形 徹 立命館大学衣笠総合研究機構 教授

中国におけるチガヤ・ススキなどの植物の役割

—お月見のススキと比較して—

島村 恭則 関西学院大学 社会学部 教授

月待と伽:二十三夜講を中心に

李 信恵 이 신혜 フリーライター・在日朝鮮人2.5世

在日朝鮮人と秋夕

司会 永松 敦(本学教授)

参加無料

お申し込み先

kojiki1300miyazaki@yahoo.co.jp

080-6406-5493(永松)

主催 宮崎公立大学民俗学研究室

10月5日(木)までに、メール、または、
お電話でお申し込みください。



令和5年度 宮崎公立大学学術研究推進助成事業



多文化共生シンポジウム オンライン併用

日本の盆・正月／東アジアの中秋節・
秋夕・春節・ソルラル
—宮崎の二重構造—

趣旨説明 永松 敦 本学教授－多文化共生社会と文化力－

パネリスト 大形 徹 立命館大学 教授
島村恭則 関西学院大学 教授
朴炫国 龍谷大学 教授
李京叔 韓国語教師 宮崎市在住



2024年3月24日（日）
14時00分～16時00分
会場
宮崎公立大学103教室

お申込み・お問合せ
080-6406-5493

kojiki1300miyazaki@yahoo.co.jp

主催 宮崎公立大学民俗学研究室 後援 永松教授退官記念実行委員会
協力 在日本韓国民団宮崎県地方本部 宮崎華僑總會 みさき荘（青島）
東天閣 オモニのまんま亭
地域のお宝発掘・発展・発信事業（宮崎市大宮地区）



講座名	教育機関・地域と連携した防災教育（第13回ストリートウォッチング）	
実施期間回数	事前授業：5年11月17日（金） 地域調査：5年11月29日（水）、5年12月6日（水） 8時00分～13時00分	全3回
会場	事前授業：西池小学校 地域調査：中央西自治区内	
講師	宮崎公立大学 学長 辻 利則	
共催者	西池小学校、中央西まちづくり推進委員会	
後援	なし	
その他スタッフ	なし	
受講料	無料	
配付資料等	なし	
募集定員	200名	
対象	西池小学校関係者	
受講者数	小学校参加者：160名（小学生+教員） 地域の参加者：30名 学生：20名	
【講座の内容】	<p>本活動は、将来を担う子供たちへの防災教育として、平時から災害に備えた取り組みを、高齢者、障がい者など含めて実践活動を行い、地域の役割、自分にもできることを理解してもらい、さらに子供たちを通して若い世代の地域参加を促すことを目的としている。</p> <p>活動は、事前授業において、地震や津波、洪水など災害時に必要な心構え、特に普段から考えておくべきことについて学び、その後、実際に地域を調査する。</p> <p>地域調査は、危険箇所や災害時に重要となる避難場所などを知るために、地域住民の方と一緒に歩き、過去の災害など様々な話を聞く。本学の学生は地域の方と一緒に同行し、サポート役として参加する。</p> <p>本年度は、4クラスを2クラスずつに分けて2日間で地域調査を実施した。調査は、開発した防災教育用Webアプリを使用し、タブレットを使って入力してもらった。</p>	
	【講座風景写真】	
【講師コメント】	<p>本年度は、事前授業に東日本大震災を経験した地域の方に講師をお願いし、クラスごとに4クラスで防災に関する対面授業を実施した。また、講師の話の後、スマホを使ってVR体験できるVRゴーグルを用いて、地震、津波、洪水のVR映像を小学生に体験してもらった。</p> <p>調査は、地域の方と小学生、そして学生の10人程度でグループを作り、小学生は小学校のiPadを使って、危険箇所など調査データを入力（研究室で開発した防災教育用Webアプリ）してもらった。調査後、撮影した写真を小学生が印刷して利用したいという要望があり、写真を一覧で確認できるようにWebアプリを修正した。</p> <p>本年度で13回となるが、京都大学防災研究所宮崎観測所より、青島小学校においてストリートウォッチングをしたいという要望があり、本学の学生とともに、防災教育用Webアプリを使った活動に協力した。</p>	

講座名	中高生のための「使える英語」講座 Vol. 2	
実施期間 回数	令和5年12月9日(土) 10時00分～12時00分	全1回
会場	宮崎公立大学 103大講義室	
講師	宮崎公立大学 教授 松本 祐子	
共催者	なし	
後援	なし	
その他スタッフ	学生アルバイト5名	
受講料	無料	
配付資料等	ワークシート	
募集定員	30名	
対象	中学生・高校生・一般市民	
受講者数	46名	
【講座の内容】	<p>最初に Ice-breaking activities を2つ行い、参加者がお互いに知り合えるよう雰囲気づくりをした。講座の始めに単語の「コア」の意味をつかむ重要性を事例を挙げて説明した。</p> <p>次に基本動詞である “Have, Be, Get, Do” の4つを取り上げ、それぞれのコアの意味を説明し、例文の意味をグループワークで考えてもらい、それをもとに解説を行った。</p> <p>最後に学習した4つの動詞を使ったゲームを全体で行った。</p>	
【講座風景写真】		
【講師コメント】	<p>定員30名の予定だったが、予想を上回る50名以上の応募があり対応を工夫した。受講者のレベルによって6つのグループに分け、それぞれに学生アルバイト(TA)を配置した。TAが主体的にサポートに入ってくれたおかげで、参加者の個別ニーズに適宜対応することができた。</p> <p>中高生のみならず、社会人の方も多く参加してくださったので、グループワークの際に多様性があり学生にとっても刺激になったと思う。</p>	

令和5年度 宮崎公立大学自主講座

中高生のための 「使える英語」講座 vol. 2



「語彙や文法を暗記するのが大変!」と思っているみなさん、
もっと効率的に学べて、使える英語に出来る方法があります。
今回は基本の動詞 “Have, Be, Get, Do” をマスターしましょう。
英語が苦手な人も、得意な人も、楽しく参加できます。

- | | |
|-----|-----------------------------------|
| 講師 | 松本 祐子 (宮崎公立大学 教授) |
| 日時 | 12月9日(土) 10:00~12:00 |
| 会場 | 宮崎公立大学 交流センター多目的ホール |
| 対象者 | 英語学習者(中・高校生 *成人の方も歓迎) |
| 定員 | 30名程度 (右のQRコードから11月29日(水)までに申し込み) |
| 受講料 | 無料 |



※ご提供いただいた個人情報は本学が実施している各種講座の運営および統計分析に使用し、これらの目的以外に使用することはありません。



30th
ANNIVERSARY
MIYAZAKI MUNICIPAL UNIVERSITY
1993 - 2023
宮崎公立大学は2023年に
開学30周年を迎えました。



お問合せ先 宮崎公立大学 地域研究センター (凌雲会館2階)
TEL: 0985-20-4772 (土・日、祝日を除く9:00~17:00)
E-mail mmurrc@miyazaki-mu.ac.jp

講座名	ヘーゲル哲学に学ぶ考え抜く力	
実施期間 回数	令和5年12月17日（日） 14時00分～16時00分	全 1 回
会場	宮崎公立大学 交流センター 多目的ホール	
講師	宮崎公立大学 准教授 川瀬 和也（現 横浜市立大学 准教授）	
共催者	なし	
後援	なし	
その他スタッフ	なし	
受講料	無料	
配付資料等	メモ用紙（A4 白紙） 1 枚	
募集定員	50 名	
対象	一般市民	
受講者数	27 名	
<p>【講座の内容】 2022年1月に公刊された、川瀬和也『ヘーゲル哲学に学ぶ考え抜く力』（光文社新書）の内容に基づき公演を行った。 「哲学を学ぶことがなぜ重要か、説明できる」「哲学を通して身につくビジネススキルにはどのようなものがあるか、説明できる」「「考え抜く力」とヘーゲル弁証法の関係について説明できる」「「考え抜く力」の実例として、「人はどう生きるべきか」「何が存在するのか」についてのヘーゲルの考え方を説明できる」の四つの目標を立て、それらの理解に資する内容の講座を実施した。</p>	<p>【講座風景写真】</p> 	
<p>【講師コメント】 10代から70代まで幅広い世代の方に受講していただくことができた。テーマ上少々難しい内容となってしまったが、質問も多く出て盛況であった。実業に携わる受講者からの質問があったのも特徴的であった。市民の生涯教育や宮崎市の経済発展に少しでも貢献できれば幸甚である。</p>		

講座名	「謝罪」を哲学する	
実施期間 回数	令和6年2月3日(土) 15時00分～17時00分	全1回
会場	宮崎公立大学 研究講義棟 401 中講義室	
講師	東京大学大学院 人文社会系研究科 准教授 古田 徹也	
共催者	宮崎公立大学 准教授 川瀬 和也(現 横浜市立大学 准教授)	
後援	なし	
その他スタッフ	学生アルバイト	
受講料	無料	
配付資料等	あり	
募集定員	50名	
対象	一般市民	
受講者数	35名	
<p>【講座の内容】</p> <p>「謝罪」とは何かについて、哲学的な観点からご講演頂いた。英語と日本語の謝罪表現の比較や、「ソーリー・ワークス！」運動の関連といった観点から、謝罪の本性について議論が深められた。</p>	<p>【講座風景写真】</p> 	
<p>【講師コメント】</p> <p>多くの方にご参加いただき、ありがとうございました。司会の川瀬和也さんやフロアの方々との質疑応答も、45分以上に及び、充実したものになったと思います。川瀬さんはじめスタッフの皆さん、出席者の皆さんに、あらためて御礼申し上げます。</p>		



宮崎公立大学自主講座

無料託児あり(小学生以下)

「謝罪」を哲学する



※「謝罪」がテーマの哲学入門講座

『謝罪論 謝るとは何をすることなのか』(柏書房)が話題の古田徹也先生と、「謝罪」とは何か、どのような謝罪が良い謝罪なのか、といった問題について、哲学・倫理学の観点から考えます。

- 講師 古田 徹也 (東京大学 准教授)
- 日時 2月3日(土) 15:00~17:00
- 会場 宮崎公立大学 研究講義棟4階 401中講義室
- 対象者 どなたでも (一般、大学生、高校生等)
- 定員 50名程度 (応募多数の場合抽選)
- 受講料 無料

※企画・司会：川瀬 和也 (宮崎公立大学 准教授)

無料託児について

本講座では、会場横に無料託児(小学生以下)を準備します。託児希望の方は、下記のQRコードより必要事項を入力してください。

申込方法：申込締切1月28日(日)

申込QRコードよりお申込みください。

URL：<https://forms.gle/wuZurbxX2r7dwo8U8>

※ご提供いただいた個人情報は本学が実施している各種講座の運営および統計分析に使用し、これらの目的以外に使用することはありません。
※迷惑メール防止設定をされている方は、必ず「@miyazaki-mu.ac.jp」からのメールを受信できるように設定をお願いします。



申込QRコード



お問合せ先 宮崎公立大学 地域研究センター(凌霄会館2階) TEL：0985-20-4772 (土・日、祝日を除く9:00~17:00)
E-mail mmurrc@miyazaki-mu.ac.jp

講座名	児童文学で学ぶイギリス文化	
実施期間回数	令和6年2月16日(金) 18時00分～20時00分	全 1 回
会場	宮崎公立大学 凌雲会館2階 共同研究室	
講師	城西大学 助教 牟田 有紀子 講座企画・司会 宮崎公立大学 准教授 村上 幸太郎	
共催者	なし	
後援	なし	
その他スタッフ	学生アルバイト2名	
受講料	無料	
配付資料等	1冊子	
募集定員	なし	
対象	特になし	
受講者数	33名	
<p>【講座の内容】 まずは近代イギリスにおける「子どものイメージ」について概観したのち、児童文学がどのように受容されてきたのかと説明がなされた。その後、『秘密の花園』という作品をテキストに、20世紀初頭におけるイギリス文化について自然、子ども観と健康、食べ物の3つの観点から解説がなされた。『秘密の花園』の他にも『クマのプーさん』、『不思議の国のアリス』、『赤毛のアン』などの児童文学を代表する作品にも言及し、大人になってからも異文化を知る上では児童文学を読む意義は大いにあるということが述べられた。</p>	<p>【講座風景写真】</p> 	
<p>【講師コメント】 アンケートの結果が示すように、全体的に非常に満足度の高い講座であった。あまり私が児童文学を授業で教えていないので、関心のある学生には新たなジャンルを学ぶ良い機会になった。また、あまり英米文学に馴染みがない一般の参加者にとっても、有意義な入門講座になったと思う。また、講師が留学した際の写真なども多く用いられ、留学に興味のある学生にも刺激になったはずである。高校生の参加者も多く、アンケートにも好意的なコメントが見られたので、本学の宣伝に貢献できたと思っている。</p>		



児童文学で学ぶ イギリス文化

講師：牟田有紀子
(城西大学助教)
進行：村上幸大郎
(宮崎公立大学准教授)

『秘密の花園』をはじめとする、日本でも広く読まれてきた19～20世紀初頭の児童文学の代表的作品を題材に、当時の教育、道德、子どものイメージなどの問題について解説します。日本語訳も使いますので、英語に苦手意識のある方もお気軽にご参加ください。

日時：2024年2月16日(金)18:00～20:00
対象者：児童文学やイギリス文化に興味のある方
受講料：無料
会場：宮崎公立大学 凌雲会館2階 共同研究室
申込方法：QRコードよりお申込みください。
申込期限：2月5日(月)

※ご提供いただいた個人情報は本学が実施している各種講座の運営および統計分析に使用し、これらの目的以外に使用することはありません。
※ 受講の決定はメールで行います。迷惑メール防止設定をされている方は、必ず「@miyazaki-mu.ac.jp」からのメールを受信できるように設定をお願いします。

お問合せ先 宮崎公立大学 地域研究センター(凌雲会館2階)
TEL: 0985-20-4772 (土・日、祝日を除く9:00～17:00)
E-mail: mmurrc@miyazaki-mu.ac.jp



講座名	教師の「世界」を探求する	
実施期間 回数	令和6年3月2日(土) 14時00分～17時00分	全1回
会場	宮崎公立大学 交流センター 多目的ホール	
講師	松山大学 准教授 伊勢本 大 名古屋大学 大学院生 菊地原 守 講座企画・司会 宮崎公立大学 准教授 寺町 晋哉	
共催者	なし	
後援	なし	
その他スタッフ	学生アルバイト1名	
受講料	無料	
配付資料等	なし	
募集定員	なし	
対象	一般市民	
受講者数	28名	
【講座の内容】	<p>「教師」をテーマにして、教師研究を行っている講師二名を招き、講座を行った。伊勢本大氏は「教師の物語について考える」、菊地原守氏は「非正規雇用教員について考える」というテーマで話題提供を行って頂いた。</p> <p>第1部は各テーマにつき50分の話題提供の後、フロアからの質問・意見に講師2名が応答した。第2部は、話題提供内容をふまえ、グループに分かれて意見交換を行った。</p>	<p>【講座風景写真】</p> 
【講師コメント】	<p>オンライン14名、対面14名の参加者数であり、参加者は非常に意欲的だった。テーマの内容からか、大学生だけでなく学校教員や高校生の方も参加者されており、多様な立場から「教師の世界」について理解を深めることができた。意見交換時には非常に鋭い質問が数多く寄せられ、講座全体は非常に充実していた。グループに分かれた意見交換では講師の二人にも参加してもらい、活発な意見交換が行われていた。今後も研究領域の知見を市民の方々へ還元できるように、様々な企画に取り組んでいきたい。</p>	

30th
ANNIVERSARY
MIZAKI MUNICIPAL UNIVERSITY
1993 - 2023

宮崎公立大学は2023年に
開学30周年を迎えました。

2023年度 宮崎公立大学自主講座

教師の「世界」を探求する

近年、教師の働き方がメディアで取り上げられ、かつてないほど注目を集めています。日本の教師の労働時間は国際的にも長いことで有名ですが、教師たちは「子どものために」日々懸命に働いています。こうした日本における教師の献身性は教育労働を支える根幹の一つでしょう。ところが、それを当然視したり、強調し過ぎることは返って、教師の長時間労働を加速させるリスクを抱えてもいます。「子どものために」働きながらも長時間労働に陥らない教師のあり方はあるのでしょうか？

また、教師不足が社会問題化されてきた中で、これまで雇用の調整弁として扱われてきた非正規教員の存在も見逃せません。非正規教員が直面する「しんどさ」はどのようなもののでしょうか？彼/彼女らが抱く満足感は正規教員と同じもののでしょうか？

本講座では、教師を対象に研究しているお二人から話題提供して頂き、皆さんと一緒に教師の「世界」について考えていきます。

日時

2024年3月2日(土)14:00~17:00

場所

宮崎公立大学 交流センター

参加費

無料 (定員なし・託児あり)

(第1部のみオンライン配信あり)

第1部 話題提供(オンライン配信あり) 司会:寺町 晋哉(宮崎公立大学)

伊勢本 大 氏(松山大学)

「教師の物語について考える」

菊地原 守 氏(名古屋大学大学院)「非正規雇用教員について考える」

第2部 意見交換会(対面のみ) 司会:寺町 晋哉(宮崎公立大学)

グループに分かれて発表内容に関する意見交換を行います。

※ 当日のプログラム、参加申込の方法につきましては裏面をご覧ください。

自主講座フライヤー

プログラム

開会行事	14:00～14:10
伊勢本氏の話題提供	14:10～15:00
休憩	15:00～15:10
菊地原氏の話題提供	15:10～16:00
休憩	16:00～16:10
意見交換会	16:10～16:50
閉会行事	16:50～17:00

※ フォーラム終了後、本フォーラムの内容に関する簡単なアンケートにご協力下さい。

参加申込方法

右のQRコードから参加予約フォームにアクセスし、氏名・所属・連絡先(メールアドレス)等必要事項を入力の上、**2月20日(火)までに**送信してください。



※当日参加可(対面のみ)ですが、託児を希望される方は必ず期日までにお申し込みください。

お問い合わせ

〒880-8520 宮崎市船塚1丁目1-2 宮崎公立大学 地域研究センター (凌雲会館2階)
TEL:0985-20-4772(土・日、祝日を除く9:00～17:00)

アクセス

〒880-08520 宮崎市船塚1丁目1-2
宮崎公立大学 交流センター



講座名	宮崎と文学—平野啓一郎『ある男』	
実施期間回数	令和6年3月3日(日) 10時00分～12時00分	全1回
会場	宮崎公立大学 交流センター 多目的ホール	
講師	宮崎公立大学 准教授 楠田 剛士	
共催者	なし	
後援	なし	
その他スタッフ	アルバイト学生1名	
受講料	無料	
配付資料等	レジメ1部	
募集定員	20名程度	
対象	なし	
受講者数	24名	

【講座の内容】

宮崎を舞台にした小説である、平野啓一郎『ある男』を取り上げ、その見どころを解説する講座を行った。

まず作者・平野の略歴を紹介した。次に人物関係図を用いながら、小説のあらすじを説明した。実際に冒頭部分を読み、宮崎の地名・場所が出てくることを確認した。画像や動画でモデルとなった店や場所を紹介し、実際の土地を生かして物語世界が描かれていることを解説した。

5分の休憩をはさみ、後半部では、小説を原作とする映画について解説した。宮崎の場面が冒頭部分に集中していること、コロナ禍で撮影され宮崎でロケが行われていないが小道具に宮崎らしさを出す工夫があること、小説にない映画独自のセリフや演出が行われていることなどを述べた。

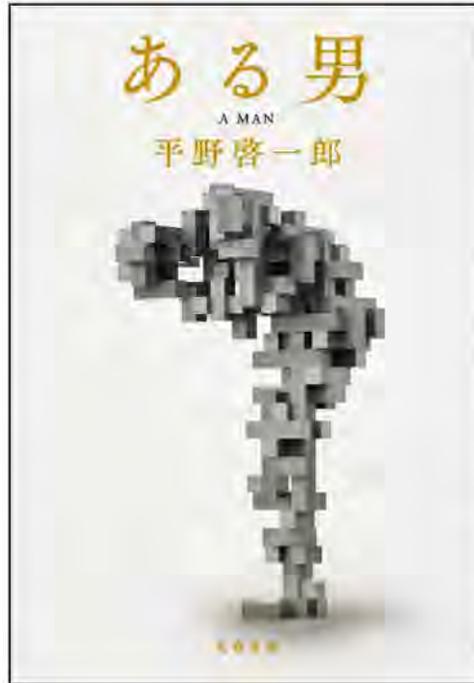
【講座風景写真】



【講師コメント】

ベストセラー小説であり、映画も日本アカデミー賞を受賞しているので受講者の関心は高かったが、宮崎をテーマすることで新鮮な視点を提供できたと考える。・高校生・大学生の参加や託児利用があったので、今後のテーマ・日程の設定に参考にしたい。講座前日に暖房設備が故障したということを知り、来場者に迷惑をかけることとなった。仕方がないことではあるが、こうしたトラブルも今後の開催に生かしたい。

「宮崎」という土地を切り口にして
現代文学の読みどころを紹介します



二〇二三年度 宮崎公立大学自主講座
宮崎と文学——平野啓一郎『ある男』

講師：楠田剛士（宮崎公立大学准教授）

日時：2024年3月3日(日)
10時～12時（9時半開場）

会場：宮崎公立大学
交流センター・多目的ホール

定員：一般市民・20名(受講無料)

申込：QRコードを読み取り
必要事項をご入力ください

申込期限：2024年2月21日(水)



無料託児について

交流センター内に無料託児所(小学生以下)を準備します。
託児希望の方は、QRコードより必要事項をご入力ください。
※ご提供いただいた個人情報は本学が実施している各種講座の運営および統計
分析に使用し、これらの目的以外に使用することはありません。



宮崎公立大学 地域研究センター 電話：0985-20-4772（土・日、祝を除く9:00～17:00）
メールアドレス:mmurrc@miyazaki-mu.ac.jp

令和 5(2023)年度 語学講座

No.	講座名	講師	講座内容	日程
1	英語中級	宮崎公立大学 准教授（現教授） Scott Bingham	前後期各 10 回 全 20 回開講。 英語の基礎、簡単な会話ができる人を対象に受講者を募集。 募集定員 40 名。 その時々話題を講師が提供し、受講生は、その話題についてグループに分かれて英語でディスカッションします。	令和 5 年 5 月 9 日～ 12 月 5 日 (8・9 月除く) 毎週火曜日 18 時 00 分～ 19 時 30 分
2	中国語初級	宮崎公立大学 日中文化交流促進部(学内課外活動団体)の学生	前後期各 10 回 全 20 回開講。 中国語を初めて学ぶ人を対象に受講者を募集。 募集定員 20 名。 留学経験のある学生や中国からの留学生、中国語を学ぶ学生たちが講師役となり、発音の基礎から簡単な会話ができるまで段階的に学びます。	令和 5 年 5 月 11 日～ 12 月 14 日 (8・9 月除く) 毎週木曜日 18 時 00 分～ 19 時 30 分
3	韓国語初級	宮崎公立大学 韓国文化研究部 (学内課外活動団体)の学生	前後期各 10 回 全 20 回開講。 韓国語を初めて学ぶ人を対象に受講者を募集。 募集定員 20 名。 韓国語を学ぶ学生たちが講師役となり、発音の基礎から簡単な会話ができるまで段階的に学びます。	令和 5 年 5 月 10 日～ 12 月 6 日 (8・9 月除く) 毎週水曜日 18 時 00 分～ 19 時 30 分

講座名	語学講座 英語中級	
実施期間等	令和5年5月9日～12月5日（8・9月を除く） * 毎週火曜日 18時00分～19時30分	全 20 回
会場	宮崎公立大学 交流センター 多目的ホール	
講師	宮崎公立大学 准教授（現教授） Scott Bingham	
受講料	無料	
募集定員	40名 （高校生以上、英語の基礎、簡単な会話ができる人を対象に受講者を募集）	
受講者数	31名 *応募者全員受講 受講者延べ数：266名	
<p>【講座の内容】</p> <p>その時々話題を講師が提供し、受講生がグループに分かれてその話題について英語でディスカッションを行った。</p>		
<p>【受講者感想 ※アンケートから抜粋】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スコット・ビンガム先生は人間的にもバランスがとれてお話がおもしろくとても良い人で毎回楽しく参加できました。 ・とても楽しい講座でした。もちろん勉強になりました。英語は私にとって第二言語なのでむつかしい面はたくさんありますが受講してよかったです。 		

講座名	語学講座 中国語初級	
実施期間等	令和5年5月11日～12月14日（8・9月を除く） * 毎週木曜日 18時00分～19時30分	全 20 回
会場	宮崎公立大学 交流センター 多目的ホール	
講師	宮崎公立大学 日中文化交流促進部（学内課外活動団体）	
受講料	無料	
募集定員	20名 （高校生以上、中国語を初めて学ぶ人を対象に受講者を募集）	
受講者数	13名 *応募者全員受講 受講者延べ数：203名	
<p>【講座の内容】</p> <p>留学経験のある学生や中国からの留学生、中国語を学ぶ学生たちが講師役となり、発音の基礎から簡単な会話が理解できるまでを学んだ。</p>		
<p>【受講者感想 ※アンケートから抜粋】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学生さんがていねいに教えてくださり、留学生の方に発音を教えてもらったこともとてもよかったです。とても楽しく充実した時間でした。中国の文化にもふれることができ、興味がわきました。 ・ 中国語の発音と聞き取りが難しかった。公立大生の方、留学生の方の講義がとても良かった。中国の生活・文化を知ることが出来て良かった。 		

講座名	語学講座 韓国語初級	
実施期間等	令和5年5月10日～12月6日（8・9月を除く） * 毎週水曜日 18時00分～19時30分	全 20 回
会場	宮崎公立大学 交流センター 多目的ホール	
講師	宮崎公立大学 韓国文化研究部（学内課外活動団体）	
受講料	無料	
募集定員	15名 （高校生以上、韓国語で簡単な読み書きができる方を対象に受講者を募集）	
受講者数	19名 *応募者全員受講 受講者延べ数：209名	
<p>【講座の内容】</p> <p>韓国語を学ぶ学生たちが講師役となり、発音の基礎から簡単な会話が理解できるまでを学んだ。</p>		
<p>【受講者感想 ※アンケートから抜粋】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・独学では学べないことが学べて良い機会になった。 ・毎週水曜日に来るのが楽しみでした。私事で一度休んだらついていけなくなって不安でしたが、常に質問できる状況を作ってくださって助かりました。 ・理解できなかったこと、疑問に思っていたことの多くが解決しました。 		

令和5年度 宮崎公立大学 語学講座

受講者募集

英語中級
火曜日
定員40名
高校生以上
年間を通じて
受講できる方

韓国語初級
水曜日
定員15名
高校生以上
年間を通じて
受講できる方

中国語初級
木曜日
定員30名
高校生以上
年間を通じて
受講できる方

講座日程等：令和5年5月9日（火）～12月14日（木）8月、9月は除く
18時00分～19時30分 全20回（前期・後期 各10回）

会場：宮崎公立大学 交流センター 多目的ホール

受講料：無料（中国語初級のみテキスト代が必要）

英語中級（講師：スコットビンガム准教授）

・講師から出された課題を英語で話し合います。（基本的な英会話や読み方のできる方）

韓国語初級（講師：韓国文化研究部・本学学生）

・韓国語の発音基礎から始めて、簡単な日常会話までを学びます。（初心者に限る）

中国語初級（講師：日中文化促進部・本学学生）

・中国語の発音基礎から始めて、簡単な日常会話までを学びます。（初心者に限る）

※中国語初級の受講にはテキスト(発音CD付)の購入(2,420円 税込み)が必要です。

テキストの購入につきましては、講座の受講決定メールにて案内いたします。

申込方法

右の申込QRコードまたは、下記のURLより
お申込みください。

URL：<https://forms.gle/bci9NpCDUYko1nKz8>

申込締切 4月23日（日）

受講の決定はメールにてお知らせしますので、

[@miyazaki-mu.ac.jp](mailto:miyazaki-mu.ac.jp) の受信許可設定をお願いします。

※ご提供いただいた個人情報につきましては、本学が実施している各種講座の運営
及び統計分析に使用し、これらの目的以外に使用することはありません。



お問合せ・申込先

宮崎公立大学 地域研究センター（凌雲会館2階） TEL：0985-20-4772（土・日、祝日を除く9:00～17:00）
E-mail mmurrc@miyazaki-mu.ac.jp

講座名	リカレント教育プログラム 「ホテル接客英語講座」	
実施期間等	令和5年9月27日～12月6日 * 毎週水曜日 13時30分～15時00分	全10回 + 修了認定試験
会場	宮崎公立大学 凌雲会館 共同研究室	
講師	宮崎公立大学 非常勤講師(英語) ヒュー・ニコル	
受講料	30,000円 (教材費等含む)	
対象	主に宮崎市内のホテル勤務者等	
募集定員	10名	
受講者数	7名	
<p>【講座の目的】 広く地域に開かれた大学として、地域における課題の解決や人材の育成に寄与するため、多様な学習ニーズに対応した多様な形態の学生（受講生）の受入を行い、生涯にわたる学び直しの場として、学習の機会を積極的に提供するため、本講座を開講する。</p>		
<p>【受講生からのコメント】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実際に接客で使えるフレーズなどを楽しく学ばせてもらった。他の同僚にも勧めたい。 ・同僚の若いスタッフの中には中々コミュニケーションが取れない者もいるので、たくさんのスタッフに受講してもらいたい。楽しい講義をありがとうございました。 ・まず耳で聞いて発音することの繰り返しが必要で大切なことだと感じました。 ・講師の配慮があり、親しみやすく楽しかった。もっと学びたかったです。 ・海外サイトからの予約が多くなり、インバウンドの客が増えて役に立っています。 ・また機会があれば是非受講させて頂きたいです。楽しい講座をありがとうございました。 		
<div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div>		

講座スケジュール

回	日 時	内 容
1	9月27日(水) 13:30~15:00	オリエンテーション 来客対応の基本
2	10月4日(水) 13:30~15:00	異文化理解と基本的な英語表現
3	10月11日(水) 13:30~15:00	ホテル接客英会話 ※エントランス・ロビー
4	10月18日(水) 13:30~15:00	ホテル接客英会話 ※フロント(チェックイン・チェックアウト)
5	10月25日(水) 13:30~15:00	ホテル接客英会話 ※ルームサービス・ハウスキーピング
6	11月1日(水) 13:30~15:00	ホテル接客英会話 ※コンシェルジュ①
7	11月8日(水) 13:30~15:00	ホテル接客英会話 ※コンシェルジュ②
8	11月15日(水) 13:30~15:00	ホテル接客英会話 ※レストラン・バー
9	11月22日(水) 13:30~15:00	ホテル接客英会話 ※電話対応
10	11月29日(水) 13:30~15:00	ホテル接客英会話 ※トラブル、クレーム対応
—	12月6日(水) 13:30~15:00	修了認定試験 ※合格者に修了認定証を発行

講座名	リカレント教育プログラム 「サービス業従事者のための接客韓国語講座」	
実施期間等	令和5年9月28日～12月14日 * 毎週木曜日 10時00分～11時30分	全10回 + 修了認定試験
会場	宮崎公立大学 凌雲会館 共同研究室	
講師	宮崎公立大学 非常勤講師(韓国語) 申 允珠	
受講料	30,000円 (教材費等含む)	
対象	主に宮崎市内のサービス業従事者等	
募集定員	10名	
受講者数	8名	

【講座の目的】

広く地域に開かれた大学として、地域における課題の解決や人材の育成に寄与するため、多様な学習ニーズに対応した多様な形態の学生（受講生）の受入を行い、生涯にわたる学び直しの場として、学習の機会を積極的に提供するため、本講座を開講する。

(受講生からのコメント)

- ・毎週楽しく受講させていただきました。実務に活かしていきたいと思います。
- ・言葉だけではなく、韓国の方の国民性などを知ることができたのですごく良かったと思います。韓国人の先生から学べたので細かい発音などを指導して貰えたので嬉しかったです。
- ・今回の講座で文字が読めるようになり、業務で使える文章も学ぶことができ、参加して良かったです。
- ・韓国語の本よりも韓国の方の発音を実際に聞いて覚えた単語等があり、またとても分かり易かったので他の同僚にも勧めたいです。
- ・先生が一人一人のペースに合わせてくれたのでとても分かり易かったです。
- ・少しでも勉強をしていると何となく（お客様は）こういう事を言っているのではないかと想像することもできます。



講座スケジュール

回	日 時	内 容
1	9月28日(木) 10:00~11:30	オリエンテーション、ハングルについて 基本母音
2	10月5日(木) 10:00~11:30	基本子音
3	10月12日(木) 10:00~11:30	濃音 合成母音
4	10月19日(木) 10:00~11:30	パッチム ハングルで書いてみよう!
5	10月26日(木) 10:00~11:30	韓国語の簡単な挨拶 自己紹介をしてみよう(名前、居住場所、趣味、特技等)
6	11月2日(木) 10:00~11:30	フロントでの会話 韓国カルチャー(日韓の違い:生活様式について)
7	11月9日(木) 10:00~11:30	買い物・ショッピング時の会話 韓国カルチャー(日韓の違い:支払いについて)
8	11月16日(木) 10:00~11:30	レストランでの会話 韓国カルチャー(日韓の違い:食事について)
9	11月30日(木) 10:00~11:30	電話対応 韓国カルチャー(日韓の違い:敬語について)
10	12月7日(木) 10:00~11:30	トラブル・クレーム対応 韓国カルチャー(日韓の違い:ジェスチャーについて)
—	12月14日(木) 10:00~11:30	修了認定試験 ※合格者に修了認定証を発行

令和 5(2023)年度 開放授業

名 称	担 当 講 師	概 要	期 間
前 期 開放授業	—	—	—
後 期 開放授業	科目コーディネータ 担当講師 (現特任准教授) 新村 拓也	宮崎公立大学の講義の一部 を地域住民の皆さまに公開 し、学生と一緒に授業を受け ることができる取り組み。	令和 5 年 9 月～ 令和 6 年 1 月

開放授業 < 令和5(2023)年度 後期 >			
申込期間	令和5年8月7日(月) ~ 令和5年8月31日(木)		
授業期間	令和5年9月 ~ 令和6年1月		
応募状況	【申込件数】 1件		
	【申込者合計】 1名		
受講状況	【受講者数】 0名		
	【受講件数】 0件		
	【受講者の年齢分布】 なし		
	【修了証授与者】 なし		
受講料	1科目 5,000円 (15回の講義)		
オリエンテーション	開催せず		
開 講 科 目 一 覧			
科 目 名	担当教員	定 員	受講者数
1 自然災害と防災・減災	科目コーディネーター講師 (現 特任准教授) 新村 拓也	5	0

宮崎公立大学 令和5年度 後期開放授業

防災士を
目指そう!

防災士養成講座

「自然災害と防災・減災」

学生と一緒に本学の授業を受講する「開放授業」として実施します。本講義を受講し、一定基準をクリアすれば、防災士試験の受験資格を得ることができます。

自然災害はいつ起こるかわかりません。災害発生の仕組みや、いざというときの心構えを学ぶことで、防災・減災について考えてみませんか。



実施概要

授業期間：令和5年9月末～令和6年1月
 (毎週月曜日 16:20～17:50)
 (この期間に90分×15回の講義を実施します)
 (防災士資格取得試験は令和6年1月に実施予定)
 募集期間：令和5年8月7日(月)～8月31日(木)必着
 場 所：宮崎公立大学(宮崎市船塚1丁目1番地2)
 受講資格：18歳以上の方
 定 員：5名程度(応募多数の場合は抽選)
 受講料：5,000円(別途、テキスト代4,000円等の費用負担が生じます)

申込方法・募集要項について

お申込みはこちらの「開放授業申込書」を郵送、FAXまたは下記申込フォーム(QRコード)より申込してください。

※防災士資格取得条件等の詳細については「令和5年度後期開放授業 募集要項」をご覧ください。

募集要項は下記のいずれかの方法で入手してください。

- 来学での請求 ※下記地図を参照ください。
宮崎公立大学 地域研究センター(凌雲会館2階)で配布しています。
- ウェブサイトからダウンロード
宮崎公立大学ウェブサイトからダウンロードしてください。

開放授業申込書 「自然災害と防災・減災 (防災士養成講座)」

ふりがな		年齢	歳
氏名			
住所	〒		
連絡がとれる電話番号		メールアドレス	



申込フォーム

※ご提供いただいた個人情報につきましては、本学が実施している各種講座の運営及び統計分析に使用し、これらの目的以外に使用することはありません。

問合せ・申込先

宮崎公立大学 地域研究センター
 〒880-8520 宮崎市船塚1丁目58番地 凌雲会館2階
 TEL : 0985-20-4772
 FAX : 0985-20-4773
 E-mail mmurrc@miyazaki-mu.ac.jp
 受付時間：平日9時～17時(土・日・祝日を除く)



詳細はウェブサイトをチェック→
<https://www.miyazaki-mu.ac.jp/>

宮崎公立大学 検索

令和 5(2023)年度 公民館講座

NO.	講 座 名	担当講師	日程・講座会場
1	ひむか元気塾 (よみがえる江戸時代の宮崎)	教授 大賀 郁夫	中央公民館 令和 5 年 6 月 1 日 (木)
2	「公立大のまちなかゼミ」 言葉の技術	教授 松本 祐子	久峰中校区活動センター 令和 5 年 9 月 23 日 (土)
3	よみがえる江戸時代の宮崎	教授 大賀 郁夫	生目地区交流センター 令和 5 年 9 月 29 日 (金)
4	「公立大のまちなかゼミ」 日本文学／映画を読む	准教授 楠田 剛士	久峰中校区活動センター 令和 5 年 10 月 14 日 (土)
5	「公立大のまちなかゼミ」 よみがえる江戸時代の宮崎	教授 大賀 郁夫	久峰中校区活動センター 令和 5 年 10 月 28 日 (土)
6	生き生きシニアスクール (よみがえる江戸時代の宮崎)	教授 大賀 郁夫	宮崎西交流センター 令和 5 年 11 月 10 日 (金)
7	「公立大のまちなかゼミ」 心理学	教授 川瀬 隆千	久峰中校区活動センター 令和 5 年 11 月 11 日 (土)

令和 5(2023)年度 その他講座・講演・講義

講 演 名	担 当	開 催 趣 旨	日 程
宮崎公立大学 教育 フォーラム 2023 これからの時代の 生徒指導のあり方	宮崎公立大学 教職課程部会	<p>急激な社会変化に伴う価値観の多様化や人間関係の複雑化など、児童生徒を取り巻く環境は大きく変化しています。そのような中、不登校児童生徒数やいじめの認知件数は依然として増加傾向を示すなど、学校における生徒指導上の課題は一層深刻化していると思われます。こうした状況を踏まえ、学校における生徒指導の考え方や実際の指導方法等を定めた基本書である「生徒指導提要」が昨年 12 月に 12 年ぶりに改訂されました。今回で 6 回目の開催となる宮崎公立大学教育フォーラムでは、「これからの時代の生徒指導のあり方」をテーマに、基調講演と分科会を通して、これからの学校で必要になる生徒指導のあり方について考えていきたいと思ひます。今回の基調講演は、宮崎公立大学会場における対面参加とオンライン（Zoom）での遠隔視聴による参加の両方が可能なハイブリッド方式で行います。日頃から学校現場で生徒指導を実践されている先生方、教育行政に携わる方々、教職に関わる研究を進めておられる研究者の方々、これから教職を目指して大学で学んでいる学生の方々等、本テーマに関心のある皆様方のご参加を心よりお待ちしております。</p>	令和 5 年 8 月 4 日（金） 13:00～16:30

宮崎公立大学教育フォーラム 2023

講演名		これからの時代の生徒指導のあり方	
実施日時等	令和5年8月4日（金）13時00分～16時30分	全 1 回	
会場	宮崎公立大学 103 大講義室		
	時間	内 容	
1	13時00分 ～13時10分	開会行事	
2	13時10分 ～14時10分	基調講演 (ハイブリット開催)	テーマ：生徒指導提要の改訂と新たな展開 —子どもの権利の尊重とポジティブ・シフト— 講 師：伊藤 秀樹（東京学芸大学 准教授）
3	14時10分 ～14時30分	質疑応答 (ハイブリット開催)	
4	14時30分 ～14時40分	休 憩	
5	14時40分 ～16時20分	分科会 (対面のみ)	生徒指導についての情報交換 グループに分かれて生徒指導に関する情報交換をおこなった
6	16時20分 ～16時30分	閉会行事	
受講料	無料		
対 象	宮崎県内外の教育関係者		
受講者数	48名（オンライン受講者含む）		

宮崎公立大学 教育フォーラム2023

これからの時代の生徒指導のあり方

【開催趣旨】

急激な社会変化に伴う価値観の多様化や人間関係の複雑化など、児童生徒を取り巻く環境は大きく変化しています。そのような中、不登校児童生徒数やいじめの認知件数は依然として増加傾向を示すなど、学校における生徒指導上の課題は一層深刻化していると思われます。こうした状況を踏まえ、学校における生徒指導の考え方や実際の指導方法を定めた基本書である「生徒指導提要」が昨年12月に12年ぶりに改訂されました。今回で6回目の開催となる宮崎公立大学教育フォーラムでは、「これからの時代の生徒指導のあり方」をテーマに、基調講演と分科会を通して、これからの学校で必要になる生徒指導のあり方について考えていきたいと思っております。今回の基調講演は、宮崎公立大会場における対面参加とオンライン(zoom)での遠隔視聴による参加の両方が可能なハイブリッド方式で行います。日頃から学校現場で生徒指導を実践されている先生方、教育行政に携わる方々、教職に関わる研究を進めておられる研究者の方々、これから教職を目指して大学で学んでいる学生の方々等、本テーマに関心のある皆様方のご参加を心よりお待ちしております。

日時

2023年8月4日(金)13:00~16:30

場所

宮崎公立大学 103講義室

参加費

無料 (定員なし)

基調

テーマ： 生徒指導提要の改訂と新たな展開

一子どもの権利の尊重とポジティブ・シフトー

講演

講師： 伊藤 秀樹(東京学芸大学 准教授)

分科会：生徒指導についての情報交換

グループに分かれて生徒指導に関する情報交換を行います。

※ 当日のプログラム、参加申込の方法につきましては裏面をご覧ください。

後援：宮崎県教育委員会・宮崎市教育委員会

英語教育フォーラム 2023 フライヤー

プログラム

1	開会行事	13:00~13:10
2	基調講演 (ハイブリッド開催)	13:10~14:10
3	質疑応答 (ハイブリッド開催)	14:10~14:30
休憩		14:30~14:40
4	分科会 (対面のみ)	14:40~16:20
5	閉会行事	16:20~16:30

※ フォーラム終了後、本フォーラムの内容に関する簡単なアンケートにご協力下さい。

参加申込方法

右のQRコードから参加予約フォームにアクセスし、氏名・所属・連絡先(メールアドレス)等必要事項を入力の上、**7月29日(土)まで**に送信してください。後日、受付確認メールを送信していただいたメールアドレス宛にお送りします。



お問い合わせ

〒880-8520 宮崎市船塚1丁目1-2 宮崎公立大学「教育フォーラム開催事務局」
TEL: 0985-20-2213 FAX: 0985-20-4820 E-mail: kyoumu@miyazaki-mu.ac.jp

アクセス

〒880-8520 宮崎市船塚1丁目1-2
宮崎公立大学 研究講義棟1階 103大講義室



Ⅱ 研 究 事 業

令和 5(2023)年度 宮崎公立大学学術研究推進助成事業

令和 5(2023)年度 宮崎公立大学学術研究推進助成事業

No.	職 氏 名	研 究 課 題
1	教授 永松 敦	シンポジウム 『日本の盆・正月／東アジアの十五夜・正月—宮崎の二重構造—』
2	准教授 梅津 顕一郎	21 世紀型地域ガイドブックの構想:地域の魅力を語る新しい枠組

シンポジウム『日本の盆・正月／東アジアの十五夜・正月
—宮崎の二重構造—』

[研究代表者]

永松 敦 (宮崎公立大学 教授)

[研究分担者]

島村 恭則 (関西学院大学 教授)

大杉 徹 (立命館大学 教授)

朴 炫国 (龍谷大学 教授)

李 京叔 (韓国語講師)

I 実施概要

これまで3年間、日中韓の十五夜行事を通して、その共通点、及び、相違点を探ってきた。東アジアの十五夜は、収穫祭とともに、先祖信仰の要素が強く認められる。宮崎を含む南九州から沖縄地方にかけての十五夜綱引きも、広く、半島、及び中国にも認められる。今回は、3人の先生方から、世界中の綱引き行事を見渡し、東アジアの綱引きとは何か、を考える絶好の機会となった。十五夜は旧暦8月15日を指すが、旧暦1月15日の小正月の行事とも深くかかわっている。

シンポは中国文化専門の、大形徹氏からは中国各地の中秋節と春節との比較を行い、韓国文化専門の朴炫国氏は、韓国の綱引きが、十五夜と小正月に行われる場所が二分されるとし、相互に関連性が強いと指摘された。李京叔氏は、韓国の各家庭で行われる秋夕の行事についてご教示を賜り、その時につくる、シッケという麦を発酵させた飲み物の作り方を講義され、参加者への振る舞いも行われた。研究者からの視点と、民衆レベルでの節日の捉え方の違いが浮き彫りとなり、実りの多いシンポジウムとなった。島村恭則氏は、年中行事がなぜ繰り返されるのかについて、理論的に解説をされた。冒頭に20分ほど、研究代表者の退官に伴い20分程度、「多文化共生社会と文化力」という演題で講演を行った。

II 本事業実施により得た成果・効果等

本シンポの発端は、宮崎市下北方町の景清廟が十五夜に供養祭を行い、生目神社は旧暦1月15日が大祭という、同じ景清を祭る二か所が小正月と十五夜が対になっている関係を、東アジアの諸行事から読み解こうと試みたものである。

宮崎市内の文化は東アジアの暦における、二つの大きな節目を忠実に伝えていることが認められる研究内容であり、大きな成果となった。特に、朴先生は世界中の綱引き行事を視覚的に捉え直し、綱と龍との関係を読み解こうと試みたのは圧巻だった。綱を用いる行事は、単に、綱引きにとどまらず、宮崎の神楽における綱鬼神・綱荒神ともかかわり、神がかりを行う重要な呪具でもある。龍・蛇・綱がどのように関わるか、日本のみならず、世界中の文化を考えるうえでも重要な研究の一環なのである。

III 問題点および今後の課題等

本研究を3年間、4回のシンポジウムを実施した。今回はあいにく荒天となったが、コロナ禍以後、急速に普及したオンライン併用によって、多くの参加者に恵まれた。今回は研究代表者の定年退職直前のシンポジウムということで、講演を行ったが、東アジアの年中行事を研究することは、相互理解、共通認識を学ぶ上でも極めて重要である。ところが、「文化力」という言葉はややもすれば、自文化の誇張につながり、異文化との摩擦を引き起こす可能性を有している。文化力とは、相互の文化を広く正しく学び、尊重しあうことが重要であり、将来的には世界平和に大きく貢献する要素となりうると、私などは考えている。政治力・経済力・軍事力よりも上のレベルで、文化力を世界規模で構築する必要性を痛感している。

今後は、共同研究員である関西学院大学の島村恭則氏のご尽力により、同大学世界民俗学研究センターにおいて、引き続きオンラインで「十五夜シンポジウム」を継続開催することで、東アジア、並びに世界平和へと、微力ながら貢献したいと考えている。

21 世紀型地域ガイドブックの構想:地域の魅力を語る新しい枠組

[研究代表者]

梅津 顕一郎 (宮崎公立大学 准教授)

[研究分担者]

倉 真一 (宮崎公立大学 准教授)

I 実施概要

・プロジェクトの2年目にあたる令和5年度は、前年度からの研究成果を踏まえ、昭和堂「大学的地域ガイド」シリーズの宮崎版の出版を目指し、①具体的な「地域ガイド」編集の方向付けと、②出版に向けての昭和堂担当者への聞き取り（相談）と具体的な出版計画の立案を行った。

①については、既刊の「大学的地域ガイド」シリーズの俯瞰的な読解を前年度より継続し、新たに宮崎および他地域における、20世紀型観光ガイドや文化資源研究等の文献の比較検討を行った。そこから21世紀をポスト総力戦体制時代の本格進展過程と位置付け、それに相応しい地域文化への視点の在り方を理念的に模索した。さらに「ポスト総力戦体制の時代」において、宮崎地域の何を取り上げ、どのような角度から論じるのかについて検討し、その成果の一部を「書評」としてまとめ、『宮崎公立大学人文学部紀要』第31巻1号にて公表した。

②については、①の結果を踏まえ、昭和堂の同シリーズ担当編集者への出版相談も兼ねた聞き取りを実施した。宮崎県版独自のコンセプトや全体構成などについて検討し、出版に向けて宮崎大学と本学との共同編集が望ましいとの結論に至り、出版企画（編集責任と執筆者陣の選定方針、日程等）のおおよそを立案した。

II 本事業実施により得た成果・効果等

- ・「21世紀型地域ガイドブック」を構想するにあたって、20世紀型のそれと対比を行い、20世紀型の特徴を「総力戦体制」に対応した地域ガイドブック、21世紀型を「ポスト総力戦体制」に対応した地域ガイドブックとして理念的に整理した。
- ・昭和堂刊行の「大学的地域ガイド」シリーズの宮崎版を刊行することを念頭に、同シリーズについて（地域）内発的な視点、（地域を越えた）関係的な視点、（既存の地域イメージを相対化する）歴史的視点の3つ観点から検討し批評を行い、その成果を書評「地域の新しい語り方—昭和堂刊『大学的地域ガイド』シリーズを読む—」として、『宮崎公立大学人文学部紀要』に投稿し掲載された。
- ・昭和堂の同シリーズ担当編集者への聞き取り調査の結果から、『大学的宮崎ガイド』の執筆、編集、刊行の条件について、出版助成の確保、出版スケジュール、執筆テーマの多様性と執筆者の面から検討し、本学と宮崎大学（具体的には地域資源創成学部）との共同執筆案が最も相乗効果が高いとの結論を得た。

III 問題点および今後の課題等

執筆テーマの多様性と執筆者の確保については、宮崎大学地域資源創成学部との共同執筆によって一定の目処が立つが、今後の課題として具体的に以下の対応や作業が必要である。本学および宮崎大学地域資源創成学部との共同執筆のオーソライズと出版に向けた機運の醸成のため、学長

および宮崎大学の桑野学部長へのプレゼンを実施する。両大学で組織的な承認を得られれば、合同ワーキンググループを立ち上げ、執筆者の選出、執筆テーマの決定、章立ての検討などが必要となる。出版に必要な50万~100万円の出版助成確保のため、助成金申請などを行う。合わせて本の概要（コンセプト）、執筆者一覧、章立て案をまとめ；今年12月を目処に昭和堂の企画会議に提出する。その後は来年6月までに原稿執筆を完了、来年度末の刊行に向け、両校間の連携およびスケジュール管理が重要になる。また『大学的宮崎ガイド』の教育、研究、地域貢献への相乗効果を高めるためにも、大学でのテキスト採用を含め、出版後の活用策を考える必要がある。

Ⅲ 連 携 協 力 事 業

宮崎市教育委員会等との連携協力

宮崎市教育委員会との令和5(2023)年度連携協力事業については、以下のとおりである。

1 宮崎東中学校における英語学習アシスタント活動（長期：半年間）

教員を目指している4年生が、卒業後、不安なく教壇に立てるよう、昨年に引き続き半年間、英語学習アシスタント活動を行う。

●参加者無し

2 宮崎東中学校における英語学習アシスタント活動（長期：1年間）

教員を目指している2年生が、教育実習前の中学校での学校体験として、平成26(2014)年度から英語学習アシスタント活動を行う。

●2年生3名参加

3 大宮中学校における英語学習アシスタント活動（長期：半年間）

教員を目指している4年生が、卒業後、不安なく教壇に立てるよう平成27(2015)年度から英語学習アシスタント活動を行う。

●参加者無し

4 大宮中学校における英語学習アシスタント活動（長期：1年間）

教員を目指している3年生が、教育実習前の中学校での学校体験として、平成29(2017)年度から英語学習アシスタント活動を行う。

●3年生6名参加

5 大宮中学校における不登校生徒への支援活動

教員を目指している学生が、不登校生徒への支援活動を行う。

●4年生4名、3年生6名参加

6 その他の活動

<宮崎西中学校における学校支援ボランティア>

① サマースクール支援（夏季休業中）

夏休み期間中のサマースクール（学習会）において、教職課程を履修している学生が中学生への学習支援を行う。

●4年生3名参加

② 英語検定二次試験面接指導

英語検定を受験する生徒を対象にした二次試験（面接）の指導に、教職課程を履修している学生が面接官役になって指導を行う。

●3年生6名、2年生7名、1年生3名参加

③ 英語学習アシスタント活動（長期：1年間）

教員を目指している2年生が、教育実習前の中学校での学校体験として、平成30(2018)年度から英語学習アシスタント活動を行う。

●2年生3名参加

<宮崎県教育委員会主催事業>

スクールトライアル事業への参加（短期：3日間）

昨年度に引き続き、教員を目指す2、3年生に対して、教育実習とは別に、教員の業務に対する理解や子どもとのコミュニケーションを図る機会を提供する。

●2年生7名参加

<宮崎市教育委員会主催事業>

宮崎市特別支援教育学生ボランティア活動（1年）

教員を目指す学生に対して、特別支援教育の理解を図るための機会を提供する。

●参加者無し

<第16回ひむかかると競技大会>

令和6年2月17日(土) 宮崎公立大学体育館において開催した。

- (1) 目的 宮崎の文化、歴史、産業、風土、偉人などを綴った郷土かるたの競技をとおして、若年層を対象に地域についての知識と愛情を育み高揚させることにより、「ふるさと・みやざき」のイメージを再生、創造する。
- (2) 主催 ひむかかると協会
- (3) 共催 宮崎公立大学
- (4) 競技種目 団体戦
- (5) 参加資格 小学生の部 県内在住の小学生

※ 詳細は、75ページに掲載

行 事 名	第 16 回 ひむかかると競技大会
目 的	宮崎の文化、歴史、産業、風土、偉人などを綴った郷土かるたの競技をとおして、若年層を対象に地域についての知識と愛情を育み、高揚させることにより、「ふるさと・みやざき」のイメージを再生、創造する。
実施日時等	令和 6 年 2 月 17 日（土）9 時 00 分～15 時 30 分
会 場	宮崎公立大学 体育館
主 催	ひむかかると協会
共 催	宮崎公立大学
競技種目	団体戦
参加資格	小学生の部：県内在住の小学生
参加者数	ひむかかると競技：9 小学校より、団体戦 21 チーム 合計 63 名
参加料	無料
資格等	団体戦各小学校 3 チームまで。
競技方法	本年度も団体戦のみの開催。予選はリーグ戦、決勝はトーナメント戦にて行う。予選リーグの対戦については、事前申し込みに従い前日までに実行委員会が代理抽選にて決定する。
競技規則	別に定める「ひむかかると大会競技規則」による
審 判	競技規則に基づき公認審判員が努める。
表 彰	1～4 位を上位入賞者とし、表彰する。また参加選手全員に参加賞を授与する。
<p>宮崎公立大学と市教育委員会の協力の下で誕生した、宮崎の郷土かるた「ひむかかると」の競技大会を、本年度も宮崎公立大学体育館にて昨年度に引き続き完全対面型で開催した。</p> <p>16 回目を迎える今大会、競技には県内 9 小学校から、団体戦（3 人 1 チーム制。各小学校 3 チームまで参加）21 チーム 63 名の小学生が参加した。今回はポストコロナ後 2 回目となる本格開催となったが、5 類以降も完全な形での被害拡大の収束を迎えたとは言えない状況を鑑み、午前中の予選リーグを 3 試合とし、個人戦の復活を見送り団体戦のみの開催とするなど、昨年度を踏襲した規模で臨んだ。</p> <p>参加校は 9 校。昨年度よりも 1 校の増となった。今大会でも真剣に試合に臨む子供たちの姿勢には目を見張るものがあり、各選手の力量も全体的には昨年度並み以上のレベルにあり、ポストコロナ禍を迎え、各学校の教育現場においては、再び熱心にかるたに取り組んでいただいたことが確認できた。公立大、市教育委員会との協力の下で、大会規模の拡大、かるた普及の完全回復等、さらなる発展をめざしていきたいと考える。</p> <p>今後の課題としては、かるた普及活動も含めた活動組織の、現状に合わせた強化があげられる。ありがたいことに、コロナ禍においても、各学校において活動を続けていただいた例も複数あり、潜在的なニーズも考えると、大会を軸とした普及活動の必要性は相変わらず高いと考えられる。他方現在の活動主体であるひむかかると協会では、慢性的なマンパワー不足に悩まされており、活動の本格復活に向けて、公立大、市教育委員会の協力関係の下で、何らかの組織強化が必要であると考えられる。</p>	

【競技のもよう】

- ・午前10時00分より開会式、引き続き第一試合が行われた(本年度もコロナ禍後の規模縮小方針により、開会式は簡素され、従来の来賓祝辞等も見送られた)。
- ・競技は団体戦のみで争われ、昼休憩(12時～13時)をはさみ、午前中は予選リーグ3試合、午後は決勝トーナメント3試合が行われた。
- ・団体戦は宮崎南小学校「ひむかの伝説」チームが優勝した(個人情報保護の観点から、選手名は記さない)。相変わらず宮崎南小学校勢は強力メンバーをそろえたチームがそろっており、普段から教育現場において取り組んでいただいている様子うかがえた。
- ・参加校数、選手数とも、昨年度開催された第15回大会と比べ微増した(9校より63名参加)。試合ではコロナ昨年同様に、ハイレベルな技の攻防が相次いだ。特に午後の決勝トーナメントでは、白熱した試合が展開された。
- ・今回新たに参加した都農小学校は、決勝トーナメントに進出し準優勝を勝ち取る大活躍を見せた。宮崎市外からの参加校の活躍は、今後、かるた普及の広がりを考えていくうえでも、心強い出来事であった。
- ・今回も大活躍を見せた宮崎南小学校では、ひむかかるたを用いた教育、課外活動等、独自の活動をここ数年行っていただいている。コロナ禍においてもその取り組みは継続して行われており、今回もその成果が反映されたものと考えられる。

【今大会の特徴】

大会開催期日と規模

- ・今年度は昨年度大会の成果を踏まえ、本大会等の開催方法を可能な限りコロナ以前の状況に戻すことをめざした。具体的には本大会を2月第3週末、交流戦と幼児向けひむかかるたフェスタを秋季休業期間中の開催とした。また、昨年度大会では義務付けられていたマスク着用を任意とし、学校ごとの判断にゆだねる形をとった。
- ・また、開催内容については子供たちが同じ空間に長時間とどまることを避け、昨年度同様縮小規模で行った。

②企画・運営・演出面

- ・昨年同様大会規模の縮小として、種目数の削減(団体戦のみの開催)、試合数の削減による開催時間の短縮を実施した(開会式・閉会式も大幅に縮小して実施した)。
- ・選手、観戦者の安全面については、コロナウィルスの5類扱い以降の流れを受けて、マスク着用を任意とし、各学校の判断に委ねることとした。
- ・演出面では、第15回大会で行った団体戦参加のチーム名登録を、本年度も引き続き義務化した。これは、チームとしての一体感を出すとともに、子供たち自身とふるさと宮崎の関係について考えてもらうことを狙ったものである。大会当日は、昨年度にも増して子供たちの宮崎愛を感じさせる、ユニークで個性的な名前のチームで満ち溢れることとなった。
- ・運営面では、これまで好評だったBGMによる演出は今年も行われた。特にシンガーソングライター・大野勇太氏の作詞・作曲による「ひむかかるたの歌」を、引き続きイメージソングとして使用。大会全体のまとまったイメージ作りをすることができた。
- ・また、大会運営に当たり、昨年同様、ひむかかるたOBの中高生たちに司会、読み手、コート審判をお願いし、大会を大いに盛り上げていただいた。近年の大会で見えてきた「子供たち及び先生たちのひむかかるた」という大会の性格も、かなり明確になってきたと考える。運営スタッフとして大会に参加し、司会、読み手、審判等重要な役割を果たすことは、選手として勝負を争うこととはまた違った喜びを与える。大会を追うごとに運営に子供たちがかわる傾向は、

本来のかるたの魅力、事業の狙いから考えれば、まさに理想的な展開であるといえる。今後ますますのかるた普及への効果を期待して充実したものとしていきたい。

- ・事前告知、事後の報告については、大会の事前広報活動（大会告知、宣伝ポスターの発行）や当日の運営の主要業務はひむかかるた協会事務局を中心とした実行委員会が行った。特に今回は無理のない参加をお願いする観点から、各小学校への訪問指導や宣伝ポスターの配布等は最低限度とし、協会ホームページでの情報発信を中心とした。

③参加学校について

- ・参加校数については、第15回大会の8校から微増し9校となった。前述のように、大会における選手たちの熱量、技量にはコロナ禍以前に比べても決して劣らないものが確認できた。またコロナ渦(2020～2022年)において協力校事業も大幅に縮小を余儀なくされたことも考えると、立て直しは確実に始まっていると、前向きに評価されるべき数字であったと考える。

【今後に向けて】

- ・「ひむかかるた大会」をはじめとする一連のひむかかるた普及事業については、これまで「ひむかかるた協会」を中心に、市教育委員会、宮崎公立大学の強力な支援を仰ぎながら、順調な発展をとげることができたと思う。宮崎公立大学から、地域への地域貢献としてスタートした事業が、10年を経て地域に根付き、地域と公立大が連携して行う活動へと育ちつつあることを、昨年度同様実感する次第である。
- ・とりわけコロナ以前からの活動が、現場の先生方のご尽力により、ポストコロナ禍の現在に継続できたことの意味は大きい。故郷に対する単純な愛着心を作るだけでなく、幼児期、小学校、中学校をつなぐことで、広く協同性や寛容性をも育むのがひむかかるた事業の大きな狙いであり、我々の活動はそのような意味での新しい郷土造りの実現に向けて歩んでいると考える。
- ・さらに言えば、本年度大会における都農小チームの活躍は、この流れが、宮崎市外にも広がる可能性を示している。我々が最終的に目指すのは、全県レベルでの普及であり、その可能性が今回伺えたことは大きい。
- ・この方向性を基本としながら、第15、16回大会の成果を踏まえつつ全体プランを練り直し、かるたの普及に努めていきたいと考える。これまでの活動において、宮崎公立大、市教育委員会及び各小学校との間に作ってきた協力関係をベースに、新たに宮崎保育会の支援もいただきつつ、幼少期からの活動として発展させていきたい。
- ・これまで活動を発展的に継続できたことに関して、関係各位には厚く御礼を述べるとともに、これからも変わらぬご尽力を賜るよう、切にお願い申し上げます次第である。

文責・梅津 顕一郎（宮崎公立大学 准教授 ひむかかるた協会会長）

宮崎銀行・宮崎太陽銀行との連携協力

- ◎ 「キャリア設計Ⅱ」の講義での企業訪問受け入れ(宮崎太陽銀行)
本学の後期開講科目である「キャリア設計Ⅱ」で実施する学生の企業・自治体インタビューの受入を行っていただいた。
 - (1) 実施日 令和5年11月28日(火)
 - (2) 参加学生数 宮崎太陽銀行 10名

- ◎ 宮崎公立大学広報誌「MMU SHiP vol.18」の制作協力(宮崎銀行)
大学広報誌の裏表紙に掲載するにあたり、卒業生の宮崎銀行行員に対して取材を行い、本店内で撮影させていただいた。

宮崎商工会議所との連携協力

1 みやざき観光・文化検定

みやざき観光・文化検定の試験会場として、学内施設の貸出を行った。

・実施日：令和5年12月17日（日）

宮崎日日新聞社との連携協力

本学では、学生が時事問題や地域の課題について関心を高めるため、新聞を活用した講義（※）を設け、宮崎日日新聞社から、その講義に、記者などを講師として派遣していただいている。

※令和5（2023）年度後期「時事問題ガイド」（主に1年生対象科目）

令和5年9月29日（金）～令和6年1月26日（金）15回講義を実施

令和5（2023）年度後期「時事問題ガイド」

	日 時	講義題名	講師名
1	9月29日（金）	新聞のイロハ キャリア設計の力に	宮下 拓 ニュースセンター参事
2	10月6日（金）	日南の観光 高速道をどう生かす	落合 敬史郎 報道部編集委員
3	10月13日（金）	子ども食堂の可能性 課題解決の場所にも	新坂 英伸 報道部次長
4	10月18日（水）	人口減少 変化の波チャンスに	中川 美香 報道部長
5	10月27日（金）	ラグビー日本代表とW杯 本県から勝利後押し	斉藤 真広 編集委員室長
6	11月3日（金）	歴史書としての新聞 「転換点」を日々記録	戸高 大輔 編集局次長
7	11月10日（金）	地域面から見る宮崎 外の力生かし存続へ	高森 千絵 報道部編集委員
8	11月17日（金）	NIE 「自ら学ぶ力」育てる	黒木 友貴 読者局読者室読者企画委員
9	11月24日（金）	県内就職するなら 広がる可能性 挑戦を	樋口 由香 経済部長
10	12月1日（金）	スポーツと地域 プロ憧れ、楽しみ生む	大山 俊郎 運動部長
11	12月8日（金）	投票率から考える選挙 低迷の中に新たな風	伊佐 賢太郎 報道部次長
12	12月15日（金）	実名報道 真実味持たせ教訓に	足立 希 報道部次長
13	12月22日（金）	新聞小説 歴代作家 時代を映す	杉田 亨一 生活文化部次長
14	1月19日（金）	新聞における写真の役割と力 ビジュアル化も重視	中島 雅隆 写真映像部長
15	1月26日（金）	デジタル時代の報道 「正確な情報」生命線	鬼束 功一 デジタル企画部長

宮崎県立宮崎南高等学校と連携・協力に関する協定

令和5年9月22日（金）、宮崎公立大学（辻学長）と宮崎県立宮崎南高等学校（那須校長）は、本学及び宮崎南高校の関係者、更には宮崎南高校の生徒約80名が集まる本学の交流センターにおいて、連携・協力に関する協定を締結いたしました。



締結式において、辻学長は、「地域や国際社会で活躍できる人材育成に貢献し、地域に根差した教育機関として共に発展していくことを目的に、連携・協力に関する協定を締結することとなった。お互いの教職員や学生、生徒の交流を通じて、それぞれの教育成果に、相乗効果が生まれることを期待している。」と抱負を述べられました。

具体的には、宮崎南高校で行われている探究活動について、本学の教員が指導・助言をしたり、本学の教職を履修する学生が、宮崎南高校において、教育実習や、学校体験活動を行ったりする等、お互いの教職員や学生、生徒の交流を深めていくこととしています。

本学が高等学校と連携協定を締結することは今回が初めてですが、今後は他の高校との連携も視野に、地域に根差した大学として大学運営を行ってまいります。



京都大学防災研究所と学術交流に関する協定

令和6年3月29日（金）、京都大学防災研究所（中北所長）と宮崎公立大学（辻学長）は、本学及び京都大学防災研究所の関係者、中央西まちづくり推進委員会の関係者、更には防災士の資格を有する本学学生8名が集まる本学の交流センターにおいて、学術交流に関する協定を締結いたしました。



本学は、平成26年度より「自然災害と防災・減災」という防災士を養成する科目を開講し、学生だけでなく地域の方にも開放授業として受講していただき、これまで430名の防災士育成に取り組んできました。また、平成23年度より辻学長の研究の一環として中央西まちづくり推進委員会と連携した防災教育の取り組み（ストリートウォッチング）を実施してきました。

締結式において、辻学長は、「京都大学防災研究所との学術交流に関する協定を締結することで、地域住民の方にも専門的な防災教育の知識を学ぶ機会を提供できるようにしたい。」と抱負を述べられました。



IV 資 料

宮崎公立大学交流センター・凌雲会館施設利用状況

宮崎公立大学交流センターは、地域住民の生涯学習及び外国人留学生との国際交流の拠点を目指して建設されたものです。

交流センター内には、生涯学習や国際交流のための講演会等が開催できる多目的ホール、会議室、和室、交流ラウンジがあり、蔚山大学校や蘇州大学からの短期留学生の受け入れ行事や日本文化体験の場として使われるほか、一般市民向けの語学講座や学外団体による研修会など、学内外者が利用できる施設として広く活用されています。

一方、凌雲会館は、本学が開学10周年を迎えたことを記念し建設され、1階が学生支援センターと学生支援課、2階が地域研究センターになっており、主として学生や課外活動団体、本学の教職員及びそれらが関わる団体などが使用する施設です。

1 令和5(2023)年度施設利用状況

施設名		利用件数	備 考
交流センター	多目的ホール	189	
	会議室	163	
	和室	135	
凌雲会館	会議室AB	8	
	共同研究室	205	
	IT教育支援室	—	随時学生に開放

2 行事等別の施設利用率

施設名		学内行事 *1	講座等 *2	教員関連 *3	学外行事 *4	課外活動 ・ 学生使用
交流センター	多目的ホール	13.3%	34.9%	5.8%	27.5%	18.5%
	会議室	4.2	0.6%	2.5%	76.7%	16.0%
	和室	8.1%	—	0.7%	9.6%	81.6%
凌雲会館	会議室AB	87.5%	—	12.5%	—	—
	共同研究室	42.0%	46.8%	11.2%	—	—
	IT教育支援室	学生に開放				

*1 学内行事：短期留学生研修、大学訪問等

*2 講座等：各種講座等

*3 教員関連：授業等

*4 学外行事：他団体研修等

※凌雲会館は、就職活動(Web面接)の為にスペースとして学生へ開放している。

V 付 録

新聞掲載記事一覧

	掲載日	掲載紙	見出し
1	令和5年4月2日	宮崎日日新聞 (19面)	「県議選 関心持って」 公立大生 投票呼びかけ
2	令和5年4月21日	宮崎日日新聞 (17面)	公立大「より地域に貢献」 辻学長、就任会見で抱負
3	令和5年6月1日	宮崎日日新聞 (2面)	ひと 宮崎公立大の学長になった 辻 利則さん
4	令和5年7月8日	宮崎日日新聞 (14面)	選挙啓発 積極協力を 公立大「ライツ」に委嘱状
5	令和5年7月17日	宮崎日日新聞 (7面)	投票し思い伝えて 公立大生、宮崎南高で授業
6	令和5年7月25日	宮崎日日新聞 (2面)	ひと 宮崎公立大理事長に就任した 亀田 英信さん
7	令和5年9月24日	宮崎日日新聞 (15面)	国際社会の人材育成 宮崎公立大と宮崎南高 協定
8	令和5年10月17日	宮崎日日新聞 (21面)	歩廊
9	令和5年10月18日	宮崎日日新聞 (14面)	水道業務、魅力を発信 公立大生アンバサダー
10	令和5年11月28日	宮崎日日新聞 (14面)	地震や津波備え 危険箇所を確認 青島小3、4年生訓練アプリ使い学習
11	令和5年12月1日	宮崎日日新聞 (19面)	歩廊
12	令和6年1月31日	宮崎日日新聞 (23面)	歩廊
13	令和6年2月17日	宮崎日日新聞 (18面)	AI人材養成へ新学科 宮崎公立大27年春開講
14	令和6年3月3日	宮崎日日新聞 (12面)	選挙 身近に感じて 公立大生 模擬立候補し啓発
15	令和6年3月30日	宮崎日日新聞 (15面)	宮崎公立大と京大防災研究所 防災教育で連携



買い物客らに県議選への投票を呼びかけた宮崎公立大の学生＝1日午後、宮崎市・イオンモール宮崎

「県議選 関心持って」

公立大生 投票呼びかけ

宮崎市

県議選(9日投票)へ、公立大の選挙啓発部「ライ」の関心を高めようと、宮崎「ツ」と宮崎市選管は1日、

期日前投票所が設置されている宮崎市のイオンモール宮崎と宮交シティで街頭啓発を行った。同部や同市明るい選挙推進協議会のメンバーが買い物客らに投票を呼びかけた。(1面参照)

このうち、イオンモール宮崎の期日前投票所の前では、同部の3人と同協議会の地区推進員6人が法被を着込み、県議選を周知するチラシやウェットティッシュを配布。家族連れや若者に「投票をお願いします」などと声をかけた。

「ライツ」部長で新2年の柏田彩花さん(19)は「若い人もチラシを手にとってくれた。『自分一人くらい行かなくてもいい』と思わず、関心を持って候補者を

見極め、1票を投じてほしい」と話していた。

県選管によると、前回19年県議選の投票率は過去最低の39・76%。宮崎市区★「ブレみや」にも掲載

(甲斐延明)

期日前投票所が設置されている宮崎市のイオンモール宮崎と宮交シティで街頭啓発を行った。同部や同市明るい選挙推進協議会のメンバーが買い物客らに投票を呼びかけた。(1面参照)

このうち、イオンモール宮崎の期日前投票所の前では、同部の3人と同協議会の地区推進員6人が法被を着込み、県議選を周知するチラシやウェットティッシュを配布。家族連れや若者に「投票をお願いします」などと声をかけた。

「ライツ」部長で新2年の柏田彩花さん(19)は「若い人もチラシを手にとってくれた。『自分一人くらい行かなくてもいい』と思わず、関心を持って候補者を

令和5年(2023年) 4月21日(金)

宮崎日日新聞社提供

公立大「より地域に貢献」

辻学長、就任会見で抱負

宮崎市

宮崎市・宮崎公立大の第9代学長に1日付で就任した辻利則氏(59)は20日、同じ、高校教諭を経て1993年に宮崎公立大に助手として着任。2008年に教授となり、学生部長、人文

辻氏はえびの市出身。宮崎大大学院で電気工学を学んで1993年に宮崎公立大に助手として着任。2008年に教授となり、学生部長、人文

と話し、専門は「より地域に貢献し、大学の存在感をアピールしたい」と意気込みを語った。任期は4年間。

会見では「学生も教職員も幸せで楽しめる大学にしたい。それを地域にも広めた★「フレミヤ」にも掲載

本年度は開学30周年に当たり、11月に記念式典を予定していることも発表した。(甲斐延明)



就任会見で抱負を述べる宮崎公立大の辻利則学長

令和5年(2023年) 6月1日(木)

宮崎日日新聞社提供

開学30周年を迎えた宮崎公立大の第9代学長に就任した。「学生も教職員も『楽しい』と思える大学を目指し、積極的に地域に飛び込みたい。プレイングマネジャーとして役割を全うする」。開学当初から籍を置く大学のトップとして強い決意をにじませる。専門分野はシステム工学、災害情報、地域政策。主に情報技術(IIT)を活用した地

ひ 宮崎公立大の学長になった

つじ とし のり 辻 利 則さん

INTERVIEW



域課題解決に取り組んできた。インターネットが普及し始めた2002年に県内の車いす用トイレの一覧サイトをまとめたり、最近ではスマートフォンで高齢者の見守り情報を共

観念なく自由な思考を身につける「リベラルアーツ教育」。課程は1学部のみ、1学年の定員200人と小規模だが「応用力のある人材が育ち、就職先からの評価も高い」と強みを説く。一方「教育内容を対外的にうまく見せられていない」と、10年が経過した現在のカリキュラムの見直しに着手する方針だ。学生主体で学内に高齢者を招くサロン活動などを通し「若い力が

有するシステムをつくらう。」「地域活動に携わる人が楽になる仕組みをつくり、関わる人を増やせれば」との思いを描く。大学の特徴は、固定観念なく自由な思考を身に付ける「リベラルアーツ教育」。課程は1学部のみ、1学年の定員200人と小規模だが「応用力のある人材が育ち、就職先からの評価も高い」と強みを説く。一方「教育内容を対外的にうまく見せられていない」と、10年が経過した現在のカリキュラムの見直しに着手する方針だ。学生主体で学内に高齢者を招くサロン活動などを通し「若い力が

に家族3人暮らし。えびの市出身。59歳。(甲斐延明)

令和5年(2023年)7月8日(土)

宮崎日日新聞社提供



選挙啓発 積極協力を 公立大「ライツ」に委嘱状

市推進協



委嘱状を受け取る宮崎公立大選挙啓発部「ライツ」メンバー

若者に選挙への関心を高め、宮崎市明
めてもらおうと、宮崎市明
るい選挙推進協議会(長田
一朗会長)は5日、宮崎公
立大の選挙啓発部「ライ
ツ」の学生39人を同協議会
の委員に委嘱した。任期は
来年3月末までで、協議会

の会議に参加するほか、地
域での啓発活動や学校の出
前授業などに取り組み。

委嘱式は学内でありライ
ツの代表10人のほか大学、
市選管関係者らが出席。長
田会長が部長に委嘱状を手
渡し「啓発活動に積極的な
協力を願う」と激励した。

ライツの部長で2年生の
柏田彩花さん(20)は、「選
挙を身近に感じてもらえる
よう、SNSの発信と、
中、高校生への出前授業に

力を入れたい」と話してい
た。
(中村和彦)

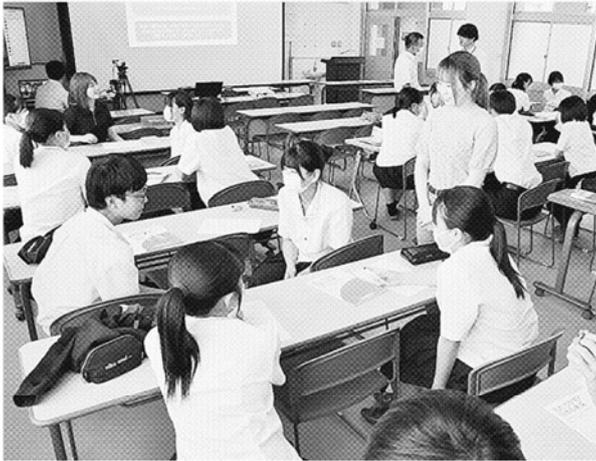
令和5年(2023年)7月17日(月)

宮崎日日新聞社提供

投票し思い伝えて

公立大生、宮崎南高で授業

若者の投票率向上を図る。よる模擬選挙を通じ、政治と、宮崎市の宮崎南高校に参画する意義を学んだ。(那須雅博校長、1063 授業は3年の一クラスで)は12日、同校で主権者あり、他の教室にリモート教育授業を開いた。3年生 配信する形で行われた。講348人が参加。宮崎公立 師として同校出身の柏田彩大の選挙啓発部「ライツ」に 花部長(20)「2年」が登壇。



模擬選挙を通じ、政治に参画する意識を高めた宮崎南高の主権者教育授業

壇。18歳選挙権やライツの啓発活動を紹介し「選挙は敷居の高いものではない。投票して自分の思いを伝えてほしい」と訴えた。

その後、同部の菅野真楠、高城結衣さん「いずれも(19)2年」が模擬選挙の立候補者役として登壇。高校生までの教育費無償化や若者の流出緩和策などの公約をそれぞれ演説し、問題点を討論した。

互いの主張を熱心に聞いた生徒はグループに分かれ、どちらが投票にふさわしいか議論。「若者向け施設の整備よりも生活を充実させる公約の方が響いた」、「立候補者の思いが理解できる討論の重要性を学べた」などと発表した。同校3年フロンティア科の嶋田裕也さん(18)は「若者の意見を政策に反映させるためには、若い世代の投票率向上が必要。必ず選挙に行きたい」と話していた。(高橋良太)

令和5年(2023年)7月25日(火)

宮崎日日新聞社提供

総務部長まで務めた宮崎市を定年退職し、4月に宮崎公立大理事長に就いた。「VUCA(ブーカ)と呼ばれる将来予測が難しい時代。大学運営でも人口減や地球温暖化、デジタル技術の進展など社会情勢を見極めた対応が必要」と現状を認識。行政で培った経験や人脈を生かし「より魅力ある、選ばれる大学を目指す」と力を込める。今年が開学30周年の

ひ 宮崎公立大理事長に就任した

と 亀 田 英 信 さん

INTERVIEW



節目で、10年ごとに行うカリキュラム見直しに着手した。人文系の1学部1学科でグローバル人材を育成する従来の方針を軸に、デジタルトランスフォーメーション(DX)の取

り組みや、中韓、英国など海外6校と協定を結ぶ留学支援を充実させたい考え。「時代の変化に対応でき、地域企業へのニーズにも応えられる学生を輩出できれば」と見据える。

宮崎市出身。宮崎南高、九州工業大を卒業後、同市役所に入庁。人事、財政など管理部門を主に歩んだ。最後に携わったのは建て替えが決まった市役所新庁舎の基本構想策定。1963(昭和38)年に移転した現庁舎敷地にかつて生家があり、「感慨深い仕事になった。どんな市役所になるか興味は尽きない」。コロナ禍が落ち着き、キャンパスには学

生(甲斐延明)の明るい声が広がる。「忙しさは市職員時代と変わらないが、若者から活力をもらっている」と新たな環境を楽しむ。

好きな言葉は「起きて半畳、寝て一畳」だが、「大好きなお酒やおいしい料理を味わいたいし、まだその境地には達していない」と笑う。同市内で同居する9歳と5歳の孫の成長を温かく見守る。61歳。

(甲斐延明)

令和5年（2023年）9月24日（日）

宮崎日日新聞社提供

国際社会の人材育成

宮崎公立大と宮崎南高協定

宮崎市の宮崎公立大（辻利則学長）と宮崎南高（那須雅博校長、1045人）



は22日、国際社会で活躍できる人材育成と地域に根差した教育の発展を目的に連携協定を結んだ。写真は同大学が高校と協定を結ぶのは始めて。同校は6例目の大学との協定となった。

同大学と同校は2020年度から交流。大学職員が生徒を指導するなどしてきており、今後さらに協力関係を強化しようと協定締結に至った。

協定では同大学が同校に職員を派遣するなどし出前授業を開いたり、探究活動へ指導、助言したりするほか、生徒や保護者の訪問を受け入れる。また同校は同大学生の教育実習を受け入れるなどとしている。

調印式は同大学であり、辻学長は「協定により相乗効果が生まれることを期待している」、那須校長は「共に発展していくことが明るい未来につながることを祈念する」と話していた。

（中村和彦）

令和5年(2023年) 10月17日(火)

宮崎日日新聞社提供



●…宮崎市・宮崎公立大
3年川人桃子さん(20)、渡
辺梨瑚さん(21)は同市で
28、29日にある宮崎神宮大

祭にちなんだ菓子「神武さ
まのおすそわけ」を販売す
る店の地図を作った写真。

●…菓子は宮崎商工会議
所が認定した商品で、5店
舗で販売している。2人は
同商議所のインターンシッ
プで地図を作成。若い人が
手に取るよう、明るく柔ら
かいデザインを意識した。

●…地図は同商議所ホー
ムページや宮崎神宮で手に
入る。店主への聞き取りや
商議所職員とのやりとりを
繰り返し2人は「社会人
との接し方が身に付いた」
と達成感を味わっていた。

(川原智美)

令和5年(2023年) 10月18日(水)

宮崎日日新聞社提供

水道業務、魅力を発信

公立大生アンバサダー

上下水道局

宮崎市上下水道局は12日、同局の業務や魅力を広く発信しようと、宮崎公立大3年の芝田朱里さん(20)と圖師菜々子さん(20)に「市ウォーターアンバサダー」を委嘱した。任期は来年3月までで、動画制作やイベントの企画・運営、SNSでの情報発信などに取り組む。

広報活動に若者の視点を取り入れようと、今年開学



芝田朱里さん



圖師菜々子さん

30周年の同大学から募集した。2人は今後、大淀川水管橋を渡ったり、応急給水タンクを組み立てたりする動画を制作。SNSを通じて発信するほか、公共施設などで同局のイメージキャラクター「アックくん」とコラボしたクイズイベントの開催なども計画している。

委嘱式は同局であり、下郡嘉浩局長は「若い発想で、いろいろなアイデアを出してほしい」とあいさつ。委嘱状を受け取った芝田さんは「市民が水道局に親しみを持つようにしたい」、圖師さんは「学生の強みを生かした情報発信をしていきたい」と話した。

(宝徳光彬)

地震や津波備え

■地域防災■



地震や津波に備え、宮崎市・青島小(黒木修志校長、121人)は22

タブレットを使って地域の危険箇所などを撮影して回る青島小の児童ら

青島小3、4年生 訓練アプリ使い学習

危険箇所を確認

日、通学路などの危険箇所を調査した。京都大防災研究所と宮崎公立大がそれぞれ開発したアプリを活用。3、4年生約50人が、大学生や住民らと地域を巡り、防災マップを作成した。

10班に分かれた児童らはタブレットを手に散策。宮崎公立大の辻利則学長が開発したウェブアプリ「ストリートウォッチング」で、倒壊の恐れがあるブロック塀や、津波による越水の危険がある河川などを撮影した。津波想定データを組み込んだ同研究所の個別避難訓練

アプリ「逃げトレ」も使い、場所ごとの津波の高さや到達時間も記録。約1時間で危険箇所など約140カ所を洗い出した。4年の伊波琉翔君(10)は「いつも通る道も危険だと分かった。予想より津波が来る時間は早かったので、避難する際は気を付けたい」、同研究所宮崎観測所の山下裕亮助教は「初めての取り組みだったが、二つを組み合わせた、防災のまちづくりのツールとして活用できるのでは」と話していた。(山下仁志)

★「プレみや」にも掲載

令和5年(2023年) 12月1日(金)

宮崎日日新聞社提供



●…漫画で学ぶ。宮崎市・宮崎公立大の図書館には「英語版コミック」が豊

富にそろそろ写真。同大学には留学を経験する学生が多く、「英語の苦手意識がなくなった」と好評だ。

●…2年ほど前、同大学の英語教員が学生の語学力向上を目的に、漫画の入庫を図書館に依頼した。現在では国内でも人気の高い60タイトル、約500冊が並んでいる。

●…多くの人に読んでもらうため、貸し出しはしていない。「楽しみながら将来に役立てて」と図書館の西井雅敏主事。学生生活の新たな一ページとなるよう願っている。(後藤渉太)

令和6年(2024年) 1月31日(水)

宮崎日日新聞社提供



●…たくさん読んでね。

宮崎市・宮崎公立大の図書館に、学生9人が1人2万円の予算で、市内の書店で

購入した計99冊の本を陳列したコーナーが設置され人気を集めている。写真。

●…学生の視点を取り入れ、図書館利用を促進しようとする9年前から毎年実施。応募した学生が大学の用意

した資料費を使い、小説や実用書、新書など、お薦め本を自由に選んだ。

●…「笑いすぎ注意」など手作りポップも付けてPR。AIの解説本などもあり、選んだ学生は「じっくり目を通せば、時代を先読みする力も身に付きます」と利用を呼びかけている。

(中村和彦)

AI人材養成へ新学科

宮崎公立大27年春開講

宮崎市・宮崎公立大(辻学科(定員200人)の1材の育成を目指す。

利則学長、896人)は16学部1学科で語学、情報教育に力を入れてきたが、2027年4月の開講を予定し、人工知能(AI)など技術革新の高度化に対応できる人材の養成を目指す。

これまで同学部国際文化



新学科の設置などを発表する宮崎公立大の辻利則学長。16日午後、宮崎市・同大学

国際情報学科ではデータサイエンスや生成AIなど幅広い情報技術とモラルを学び、新しい価値を創造する能力を身に付ける。国際文化学科では言語文化や国際政治経済のほか、実践的なビジネス英語などを学ぶ。いずれもこれまで通りリベラルアーツ教育を基盤に、教養あるグローバル人材の育成を目指す。

外国人住民向けワンストップ

国際情報学科ではデータサイエンスや生成AIなど幅広い情報技術とモラルを学び、新しい価値を創造する能力を身に付ける。国際文化学科では言語文化や国際政治経済のほか、実践的なビジネス英語などを学ぶ。いずれもこれまで通りリベラルアーツ教育を基盤に、教養あるグローバル人材の育成を目指す。

国際情報学科ではデータサイエンスや生成AIなど幅広い情報技術とモラルを学び、新しい価値を創造する能力を身に付ける。国際文化学科では言語文化や国際政治経済のほか、実践的なビジネス英語などを学ぶ。いずれもこれまで通りリベラルアーツ教育を基盤に、教養あるグローバル人材の育成を目指す。

国際情報学科ではデータサイエンスや生成AIなど幅広い情報技術とモラルを学び、新しい価値を創造する能力を身に付ける。国際文化学科では言語文化や国際政治経済のほか、実践的なビジネス英語などを学ぶ。いずれもこれまで通りリベラルアーツ教育を基盤に、教養あるグローバル人材の育成を目指す。

国際情報学科ではデータサイエンスや生成AIなど幅広い情報技術とモラルを学び、新しい価値を創造する能力を身に付ける。国際文化学科では言語文化や国際政治経済のほか、実践的なビジネス英語などを学ぶ。いずれもこれまで通りリベラルアーツ教育を基盤に、教養あるグローバル人材の育成を目指す。

国際情報学科ではデータサイエンスや生成AIなど幅広い情報技術とモラルを学び、新しい価値を創造する能力を身に付ける。国際文化学科では言語文化や国際政治経済のほか、実践的なビジネス英語などを学ぶ。いずれもこれまで通りリベラルアーツ教育を基盤に、教養あるグローバル人材の育成を目指す。

国際情報学科ではデータサイエンスや生成AIなど幅広い情報技術とモラルを学び、新しい価値を創造する能力を身に付ける。国際文化学科では言語文化や国際政治経済のほか、実践的なビジネス英語などを学ぶ。いずれもこれまで通りリベラルアーツ教育を基盤に、教養あるグローバル人材の育成を目指す。

国際情報学科ではデータサイエンスや生成AIなど幅広い情報技術とモラルを学び、新しい価値を創造する能力を身に付ける。国際文化学科では言語文化や国際政治経済のほか、実践的なビジネス英語などを学ぶ。いずれもこれまで通りリベラルアーツ教育を基盤に、教養あるグローバル人材の育成を目指す。

国際情報学科ではデータサイエンスや生成AIなど幅広い情報技術とモラルを学び、新しい価値を創造する能力を身に付ける。国際文化学科では言語文化や国際政治経済のほか、実践的なビジネス英語などを学ぶ。いずれもこれまで通りリベラルアーツ教育を基盤に、教養あるグローバル人材の育成を目指す。

国際情報学科ではデータサイエンスや生成AIなど幅広い情報技術とモラルを学び、新しい価値を創造する能力を身に付ける。国際文化学科では言語文化や国際政治経済のほか、実践的なビジネス英語などを学ぶ。いずれもこれまで通りリベラルアーツ教育を基盤に、教養あるグローバル人材の育成を目指す。

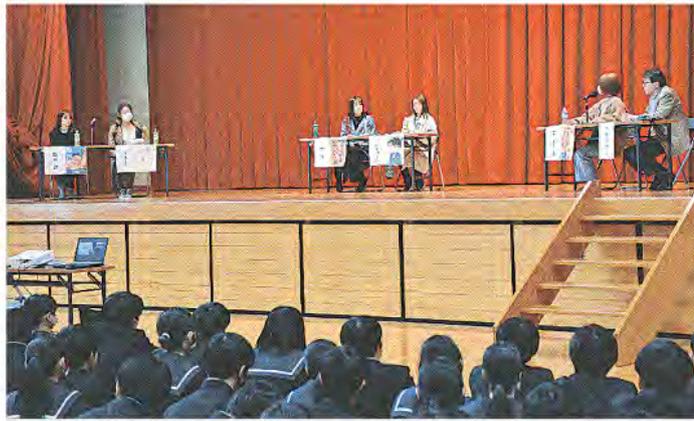
要とされる大学を目指していく」と話した。(中西透)★「プレみや」にも掲載

令和6年(2024年) 3月3日(日)

宮崎日日新聞社提供

高鍋高

選挙 身近に感じて 公立大生 模擬立候補し啓発



立候補者役を務めた宮崎公立大生の討論を
聞く高鍋高生ら

高鍋町・高鍋高(山尾典
子校長、555人)は2月
28日までの2日間、主権者
教育の一環として模擬選挙
を校内で実施した。1、2
年生349人が参加し、立

候補者同士の討論などを参
考に投票先を考えた。

28日の投票の前に、立候
補者の演説、討論会を27
日、体育館で開催。宮崎公
立大の選挙啓発部「ライ
ツ」が協力した。

ライツの学生5人が市議
会議員選挙の立候補者役と
なり、地場企業の育成や給
食費無料化、災害に強い街

を実現するといった公約を
発表して支持を訴え。続け
て立候補者が互いに質問し
合う討論があり、「なぜ議
会改革が必要なのか」「介
護施設を増やすというが、

費用はどうするのか」と施
策の目的や中身、財源の手

当てなどを尋ねた。

選挙管理委員長を務め
た、同校2年の杉恭多さん
(17)は「大学生が自分の意
見を通しながら伝えていた
のはすごいと思った。18歳
になると選挙権を持つの
で、学んだことを生かし投
票できるよう頑張りたい」
と話していた。

ライツは活動紹介や選挙
に関するクイズも実施。同
大学2年の柏田彩花さん
(20)は「選挙の敷居は高く
ないと知ってもらえたら」
と期待した。(清水正樹)

令和6年(2024年) 3月30日(土)

宮崎日日新聞社提供

宮崎公立大と京大防災研究所

宮崎公立大(辻利則学長、87
9人)と京大防災研究所(京都
府宇治市)は29日、防災教育に関



防災教育で連携

する協定を締結した。南海トラフ
巨大地震を想定し、防災士養成や
減災を目的にした研究などで連携
を深め、地域の防災力向上を図
る。県内の大学と同研究所が防災
教育に関する協定を結ぶのは初め
て。

同大学は2014年度から防災
士養成を目的にした講座を開講。
今年3月までに社会人を含め43
0人の防災士を輩出している。
協定では同研究所の職員が講師
として登壇することを検討。研究
で得た地震や地殻変動に関する知

見を提供することで、専門的知識
を身に付けた防災士養成につなげ
る。また、同研究所が開発した避
難訓練アプリ「逃げトレ」を活用
した効率的な避難方法を研究。学
生がアプリを使い、同研究所職員
の指導を受けながら避難路を確認
する機会などを設けていきたいと
いう。

同大学であった締結式で、協定
書に調印した辻学長(写真左)は
「研究所の専門的知識を還元でき
る場所になれば幸い」、同研究所
の中北英一所長(同右)は「研究
を生かし、大学が地域の防災拠点
になれるよう協力したい」と話し
ていた。

(高橋良太)

地域研究センター年報
令和5(2023)年度第16号

発行日 : 令和6年10月
編集者 : 宮崎公立大学 地域研究センター
住所 : 〒880-8520 宮崎市船塚1丁目58番地
電話 : 0985-20-4772
F A X : 0985-20-4773
U R L : <https://www.miyazaki-mu.ac.jp>
E-Mail : mmurre@miyazaki-mu.ac.jp

地域研究センター
1 年報

令和5(2023)年度
16号

宮崎公立大学